

定住化策検討プロジェクト 報告書



我孫子市定住化策検討プロジェクトチーム

平成26年2月

目 次

I. はじめに.....	1
II. 定住化策の方向性.....	2
1. ターゲットの設定.....	2
2. 定住化策検討の6つのテーマ.....	3
III. 定住化の具体策.....	6
1. シティセールスの充実.....	8
2. 子育て環境の更なる充実.....	17
3. 手賀沼の魅力向上.....	24
4. 住宅支援・住宅供給.....	38
5. 交通利便性の向上.....	44
6. 生活利便性の向上と働く場の確保.....	49
IV. 事業化に向けて.....	53
VI. 資料.....	54
1. 会議開催経過.....	54
2. 設置要綱.....	56
3. 委員名簿.....	57

I. はじめに

都心から30キロ圏内にある我孫子市は、東京のベッドタウンとして発展し、市制施行時の昭和45年に約5万人（49,261人）であった人口は、平成23年には約13万6千人（136,217人）と順調に伸びてきました。

しかし、東日本大震災のあった平成23年以降、人口は減少に転じ、特に20歳代と30歳代の転出超過が目立っています。こうした若い世代の減少によって、税収が減少し、まちの活力が失われないよう、一刻も早い対応が望まれます。

市では、これまで子育て支援の充実に力を入れて取り組み、保育園では昭和61年から待機児童ゼロを堅持してきました。さらに、学童保育室でも待機児童ゼロを維持するとともに、放課後に小学生が安心して過ごせるあびっ子クラブの運営や、中学3年生までの子ども医療費の助成など、手厚い支援を行っています。

また、我孫子市の西の玄関口であるJR我孫子駅は、千代田線の始発駅であるとともに、常磐線の運行本数も多く、都内に通勤するには大変便利なまちです。その一方で、手賀沼をはじめとした豊かな水辺と自然に恵まれ、駅を降りるとほっとする静かで穏やかな生活環境が待っています。さらに、首都圏の安全な街ランキングで2位にランキングされるなど、犯罪が少なく治安の良いまちです。震災をきっかけに人々の安全・安心への意識が高まる中、治安の良さは、我孫子市の大きなアピールポイントになると考えます。

しかし、こうしたさまざまな我孫子市のまちの魅力や充実した子育て支援策については、市外の方々にうまく伝わっておらず、認知度が低い状況です。そのため、まちの魅力をより積極的・効果的に市外に向けて発信し、我孫子市の知名度や充実した子育て支援策などの認知度を高めていく必要があります。

こうした状況を踏まえ、市では、平成25年5月に、若手職員を中心とする定住化策検討のプロジェクトチームを立ち上げました。私たちプロジェクトチームのメンバー14人は、この最終報告書をまとめるまでに、全体会議を6回開催し、定住化促進のターゲットや定住化策の方向性を議論するとともに、提案する具体的な定住化策について共通認識を深めてきました。また、3つのグループに分かれて計14回のグループワークを開催し、グループごとのテーマに沿って定住化策を検討してきました。

検討にあたっては、その事前調査として企画課が中心となって行った「我孫子市将来人口推計調査」や、「我孫子市転入者・転出者アンケート調査」、「首都圏住民に対するWEBアンケート調査」、「我孫子市定住化策検討のための学生座談会」を参考にしながら、定住化のターゲットを20歳代から40歳代までの若い世代と定め、我孫子市の強み、弱みを踏まえたうえで、若い世代に我孫子市を選んでもらい、定住してもらうためにはどうすればよいのか、また、市内の若い世代をこれ以上流出させないためにはどうすればよいのかという視点に立って検討しました。

この報告書で提案させていただいた定住化策については、事業の実施に向けてさらに検討を要するものもありますが、今後市が若い世代の定住化を進めるうえでの参考にさせていただき、事業化に向けて積極的に取り組んでいただきたいと思います。

Ⅱ. 定住化策の方向性

1. ターゲットの設定

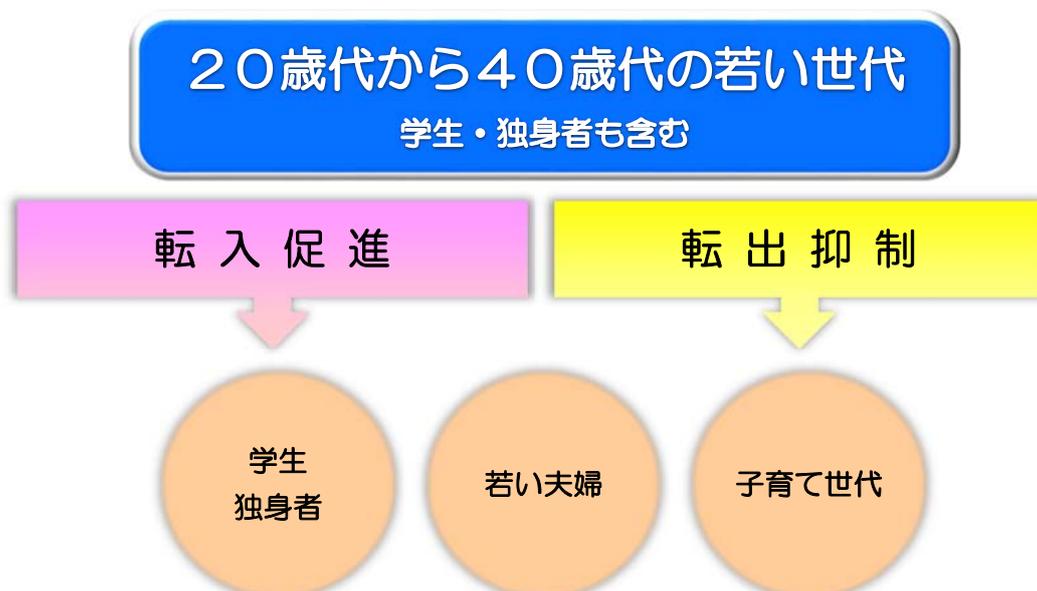
年齢別の人口推移や社会動態の分析結果などから、我孫子市の社会減の大きな要因は、20歳代から30歳代の流出と考えられます。その背景には、より利便性を求めている都心回帰や、なかなか好転しない地方における経済や雇用の状況などがあり、若い世代の流出を食い止めることは容易ではありませんが、我孫子市が持続可能なまちとして発展していくためには、働き世代の人口を維持し、税収を確保していくことが重要です。

また、20歳代後半から40歳代前半の年齢層は、子育て世代が多く、家族単位での移住により社会動態の増減に与える影響が大きいと考えます。子育て世代は、働き世代の増加を図るうえでも、子どもを産み育ててもらい自然減による人口減少を食い止めるうえでも重要な世代です。

我孫子市は、子育て施策の充実度も高く、手賀沼などの自然環境や、都心からほどよい距離感、相対的に安い地価など、子育てしながら都内に通勤する方々にとっては、非常に魅力的なポテンシャルを有しています。こうした魅力を背景に、特に未就学児を持つ子育て世代に転入してもらえれば、子どもを転校させたくないという抑止力が働き、定住化に大変有効であると考えます。

20歳代前半の年齢層は、進学や就職など、ライフステージの転機にあり、ある程度の転出は仕方がないと思います。しかし、学生時代や独身時代の若い頃から我孫子市に住んでもらい、住んでいる間に我孫子市の良さを知ってもらい、就職や結婚をしても住み続けてもらえれば、人口維持に大きな効果があると考えます。

こうしたことから、プロジェクトチームでは、我孫子市の定住促進のターゲットを、「学生や独身者も含む20歳代から40歳代の若い世代」と設定し、こうした世代の転入を促進するとともに、転出を抑制していく定住化策について検討していくこととしました。



2. 定住化策検討の6つのテーマ

プロジェクトチームでは、20歳代から40歳代の若い世代の定住化策を検討していくのにあたり、まず、我孫子市が現在進めている定住化につながると思う事業を洗い出して整理しました。

そのうえで、市内に住んでいるメンバーは、市内に住んでいて「ここが足りない」、「もっとこうしてほしい」と思うことを、市外に住んでいるメンバーは、「これがあつたら我孫子市に住むのに」と思うことや、今住んでいるまちに比べて「ここが足りない」と思うことを出し合い、第1段階として、そのすべてを、次のとおり21の定住化策の方向性として整理しました。

定住化策の方向性 【第1段階】			
1	まちづくりの方向性の明確化	12	治安のよいまちづくり
2	シティセールスの充実	13	イベントの充実
3	子育て環境の充実	14	スポーツ・レジャー施設の充実と スポーツ活動への支援
4	住宅支援・住宅供給		
5	交通の利便性向上	15	芸術・文化・サークル活動の充実
6	買い物環境の充実	16	駅前エリアの整備
7	生活の利便性の向上	17	地道な取り組みの継続的な推進
8	雇用の創出・職住近接	18	さまざまな場面での自由の確保
9	歓迎のムードづくり	19	市役所機能の集約化
10	家族や友達との近居	20	外国人の定住化
11	手賀沼の魅力向上	21	その他

次に、第2段階として、我孫子市が若い世代に選ばれるまちとなるために、今後力を入れて取り組んでいく定住化策の方向性を絞り込み、次の6つのテーマに沿って具体的な定住化策を検討していくこととしました。

定住化策の方向性 【第2段階】	
6つのテーマ	重要と考えた理由
シティセールスの充実	首都圏住民へのアンケートでは、定住先を選ぶ理由としてそのまちのことをよく知っているからという理由が最も多いのに、我孫子市が住宅購入の候補地とならない理由として、イメージがわからないからという人が4割もいた。そのため、まずは我孫子市のまちの魅力をより強力に効果的に発信し、我孫子市のイメージや知名度のアップを図っていくことが最も重要である。
子育て環境の更なる充実	我孫子市の子育て支援策は、保育園や学童保育室の待機児童ゼロをはじめとして非常に充実している。しかし、首都圏住民へのアンケートで、子育て世代にとって住宅購入のきっかけとなる行政サービスとして、子育て支援策が最も多かったことから、子育て環境の更なる充実を図ってアピールしていく必要がある。また、少子化や晩婚化、晩産化が進む中、結婚や妊娠、出産といった場面でのサポートを充実させていくことも重要である。
手賀沼の魅力向上	我孫子市の最大の魅力は手賀沼はじめとした豊かな自然環境であり、転出者へのアンケートでも、子育て世代を含めた幅広い世代で、我孫子市の魅力として自然環境や景色の良さを挙げた人が最も多かった。また、学生座談会でも、特に手賀沼公園周辺を学生などの若者にとっても魅力的な空間として整備すれば、我孫子市のウリになるとの意見もあった。こうしたことから、手賀沼周辺を若い世代や子育て世代がより楽しめる空間として整備したりイベントを開催したりするなどして、さらに魅力を高めていく必要がある。
住宅支援・住宅供給	首都圏住民へのアンケートでは、住宅購入のきっかけとして、駅に近く利便性の高い住宅があることが2番目に多かったが、我孫子市では、近年、大規模な住宅開発もなく住宅供給も低迷している。しかし、我孫子市は比較的土地が安価であることや、転入者へのアンケートでは、我孫子市への転入を決めた理由として、親・子ども・知人がいるという理由が最も多かったことなどから、住宅供給を促進し、住宅取得や親子の近居、転入などへの支援が充実されれば、定住化につながると思う。
交通や生活の利便性向上	転出者へのアンケートでは、特に成田線沿線で交通や買い物が不便だという意見が多く、学生座談会では、できる限り利便性の向上が必要とのことだった。また、首都圏住民へのアンケートでは、住む場所を決めるにあたって重視することの上位4つのうち、「通勤・通学の距離」、「公共交通の利便性」、「買い物の利便性」と利便性に関する項目が3つもあったのに対し、我孫子市が住宅購入の候補地とならない理由として、通勤・通学が不便だからという人と、交通の利便性が悪いからという人を合わせると4割もいた。こうしたことから、交通や買い物などの生活の利便性を高めていくことが重要である。
働く場の確保	我孫子市には就業できる企業が少なく、市内の働き世代の7割は、都内をはじめとした市外に通勤している。また、首都圏住民へのアンケートで、住む場所を決めるにあたって重視することの第1位は「通勤・通学の距離」であった。こうしたことから、市内で働ける場所が増えれば、それに応じて定住人口の増加にもつながると考える。

具体的な定住化策の検討にあたっては、3つのグループ（Aグループ、Bグループ、Cグループ）に分かれ、我孫子市にとって今後最も重要と考えた「シティセールスの充実」については、すべてのグループで検討し、残り5つのテーマについては、次のとおり担当グループを決めて検討しました。

テ　ー　マ	担　当　グ　ル　ー　プ
シティセールスの充実	Aグループ、Bグループ、Cグループ
子育て環境の更なる充実	Cグループ
手賀沼の魅力向上	Bグループ
住宅支援・住宅供給	Aグループ
交通や生活の利便性向上	Aグループ
働く場の確保	Cグループ

Ⅲ. 定住化の具体策

定住化の具体策については、6つのテーマごとに、我孫子市の強みや弱み、課題などを踏まえながら検討してきました。

しかし、Aグループで検討した「交通や生活の利便性向上」については、「交通の利便性向上」についてのアイデアは出ましたが、「生活の利便性向上」については提案できるようなアイデアは出ませんでした。

一方、Cグループでは、「働く場の確保」についての検討を始めましたが、平成25年度から企業立地推進課が中心となって企業立地方針の検討を開始し、今後具体的な企業立地の誘導策を検討していく状況にあったことから、企業立地の誘導策を提案するのではなく、大型商業施設の立地誘導を提案して、市民の買い物をはじめとした生活利便性の向上を図るとともに、市民の働く場の確保につなげていくこととしました。

そのため、定住化の具体策については、次のとおり、「シティセールスの充実」、「子育て環境の更なる充実」、「手賀沼の魅力向上」、「住宅支援・住宅供給」、「交通利便性の向上」、「生活利便性の向上と働く場の確保」の6つに分けて提案します。



なお、6つに分けたテーマの具体策については、以下のとおりです。

テ ー マ	具 体 策
シティセールスの充実	シティセールス・定住促進の専門部署の設置 我孫子市のイメージや知名度のアップに向けた広報戦略の実施 ①キャッチコピーをつくって電車内でPR ②不動産業者・住宅展示場・住宅メーカーなどの活用 ③ウェブ・SNSの活用 ④マスコミの活用 ⑤我孫子市の話題づくりに取り組む
子育て環境の更なる充実	英検や漢検などの資格取得 中学校における赤ちゃんと触れ合うなどの育児体験授業 水田を活用した学習の充実 子育て交流マーケット（子ども用品のフリーマーケット）の実施 子育て世代にアピールできる公園遊具などの設置
手賀沼の魅力向上	若い世代や子育て世代にアピールできる手賀沼周辺の整備 ① 手賀沼公園周辺の整備 アスレチック・複合遊具の設置 カフェ・レストランの誘致 マルシェ（青空市場）の実施、水上デッキの設置 オープンカフェの実施、ボート小屋の刷新 水上アクティビティの実施、照明の増設 アシの移植 往復カヌー・ボート・ゴンドラの実施 駐車場の整備、飲食店の誘致 ② 遊歩道沿いの湖岸整備 ③ 手賀沼親水広場周辺の整備 農家レストラン・カフェの開設 保健センターの移設、休憩施設の整備 駐車場・芝生広場の整備、水上デッキの設置
住宅支援・住宅供給	若い世代の住宅取得に対する補助金 空き家・空き地の物件情報の収集と提供
交通利便性の向上	成田線沿線住民が利用する駐車場料金への補助 成田線の不便をカバーするバスの運行
生活利便性の向上と働く場の確保	下ヶ戸地区への複合型商業施設の誘致 新木駅南口への公共施設複合型商業施設の誘致

1. シティセールスの充実

我孫子市の情報発信面での課題

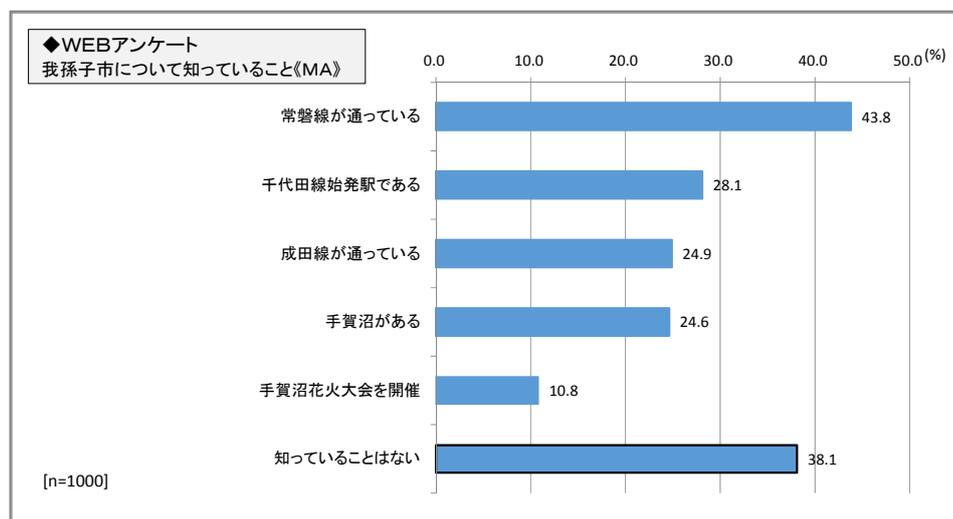
我孫子市には、都心への交通アクセスの良さや、待機児童ゼロの堅持などの充実した子育て環境、手賀沼に代表される豊かな自然環境など、定住先を検討している若い世代にアピールすべき魅力が数多く存在します。

しかし、こうした魅力については、市外の方々にはあまり知られておらず、首都圏住民の間でも、我孫子市自体の認知度が低いのが現状です。

そのため、我孫子市のイメージや知名度のアップを図り、若い世代の定住化につなげていけるよう、我孫子市の魅力を積極的・効果的に発信していくことが必要不可欠と考えます。

1. まちの魅力が伝わっていない

- ・首都圏住民に対するアンケートで「我孫子市について知っていること」を尋ねたところ、「知っていることはない」と回答した割合が38.1%にのぼった。また、我孫子市は居住候補地にならないと回答した方に対し、その理由を尋ねたところ、「イメージがわからないから」と回答した割合が39%にのぼり、最も高くなった。
- ・学生座談会でも、「これといったイメージがない」、「我孫子といえばこれ、という名物がない」という意見があった



2. 広報戦略が十分でない

- ・市の事業に関するPRや情報発信については、基本的に各担当課がバラバラに実施している
- ・我孫子市の魅力を1つにパッケージ化して、我孫子市のイメージや知名度アップを図る取り組みが行われていない

- ・市として、誰を対象に何をPRしたいのか、どのタイミングでどのように発信するかといった広報戦略が十分に練られていない
- ・市外へのPR効果が高いテレビや新聞、雑誌などのマスコミに取り上げられる回数が少なく、十分に活用できていない
- ・若い世代の間で広く利用されているフェイスブックによる情報発信が行われていない
(平成26年2月から市の公式フェイスブックページの試験運用開始)
- ・居住地を検討している方と接する機会の多い不動産業者や住宅メーカーを活用したPRが行われていない
- ・市のホームページは、見出しが多いうえに階層が複雑で、情報を検索しづらいつくりになっている
- ・若い世代が魅力的に感じ、印象に残るような話題が乏しい

我孫子市の魅力・セールスポイント

1. 交通アクセス

◆常磐線

- ・上野から我孫子駅まで35分
- ・布佐駅でも上野から直通なら50分
- ・26年度に東京駅への乗り入れを予定している

◆千代田線

- ・始発駅なので、都内まで座ってらくらく通勤できる

2. 子育てしやすい環境

◆待機児童ゼロ

- ・昭和61年度から26年間堅持し続けていて、人口10万人を超える自治体では我孫子市だけが達成している

◆あびっ子クラブ

- ・年間500円で、小学生の放課後や土曜日、夏休みなどの生活を地域の住民が学校内で見守ってくれる

◆学童保育

- ・月額8,000円と他市より割安なうえに、待機児童ゼロを堅持している

松戸市	12,000円
柏市	10,000円
流山市	9,500円
野田市	9,600円

※月額、26年2月現在



◆子ども医療費

- ・中学3年生まで、通院1回・入院1日あたりの自己負担が200円で済む

3. 手賀沼を中心とした自然環境・イベント・公共施設・文化施設

◆自然環境

- ・手賀沼の水辺や農地、斜面林などの豊かな自然に触れながら生活できる

◆イベント

- ・JBF、手賀沼花火大会、手賀沼エコマラソン、かっぱまつり、アロハフェスタ、ママへのごほうびフェスタなど数多くのイベントが開催されている

◆公共施設

- ・手賀沼周辺には、手賀沼公園、アビスタ、親水広場・水の館、鳥の博物館などの核となる公共施設が立地している

◆文化施設

- ・白樺文学館、杉村楚人冠記念館、志賀直哉邸跡地、武者小路実篤邸跡地、嘉納治五郎別荘跡地など、我孫子にゆかりのある文化人の旧居や施設が多くある
- ・鳥類の調査研究で日本を代表し、秋篠宮文仁殿下が総裁を務める山階鳥類研究所や、80年以上の歴史を誇る名門コースの我孫子ゴルフクラブがある

4. ほどよく田舎な住環境

◆治安が良い

- ・県内10万人以上の市で人口1万人当たりの犯罪発生件数が1番少ない
- ・首都圏の安全な街ランキングで2位にランクイン（25年8月3日週刊東洋経済）
- ・良好な景観づくりに力を入れているため、有害広告物が少ない

◆地価が安い

- ・例えば、駅から10分の湖北台で坪24万円、駅から5分の南新木で坪19万円、駅から5分の布佐平和台で坪15万円などの土地の売却物件がある

◆仕事と私生活（オンとオフ）を分けられる

◆3世代が穏やかにゆったり暮らすのに適している

5. 生活利便性

- ◆JR我孫子駅の南北口には、それぞれ大型スーパーが立地している

6. 観光PRキャラクター「手賀沼のうなきちさん」

- ◆平成24年に、我孫子市観光PRキャラクター「手賀沼のうなきちさん」が誕生し、市内外のさまざまなイベントで活躍している



7. その他

- ◆東京と成田の中間地点に位置しているので、例えば東京勤務の夫と成田勤務の妻といった夫婦が住むのに適している
- ◆大型商業施設が数多く立地する千葉ニュータウンに近く、布佐からは車で15分ほどの距離にある

- ◆我孫子市の新規就農者がつくるパクチーなどのタイ野菜が都内の飲食店に納入されており、その美味しさから人気を集めている
- ◆例えば、白樺派のカレーや弥生軒のからあげそば、コ・ビアンのお安くおいしい洋食など、我孫子ならではのグルメが多くある

取り組み方針

若い世代の印象に残る効果的な広報戦略の展開

我孫子市の魅力をより積極的・効果的に発信していくため、市内の体制を強化し、我孫子市のイメージや知名度のアップに向けた広報戦略を展開していく。

具体的な取り組み

1. シティセールス・定住促進の専門部署の設置

「課」または「室」相当の部署を新設し、広告代理店OBなどの経験のある職員を配置する。若い世代に向けて、我孫子市のイメージアップや定住促進につながる事業を総合的に調整しながら推進する。

2. 我孫子市のイメージや知名度のアップに向けた広報戦略の実施

①キャッチコピーをつくって電車内でPR

- ・まずは、我孫子市を通過する常磐線・千代田線・成田線で、中吊り広告やドアステッカーでPRする。また、あびバスにもポスターを掲示する。



流山市 TX車内広告



大阪府高槻市 阪急電車車内広告

- ・キャッチコピーは、市民や庁内からの公募も検討する。
- ・キャッチコピーの作り方についての提案

キャッチコピーの例	効果・ねらい
「我・孫・子 3世代でくらせる湖畔のまち」	メインコピーとPRする内容に応じて、セットで「始発にのれるまちあびこ」のようなサブコピーを添えてPRする
「我孫子って読めますか？」	クイズ形式やシリーズものにして、我孫子市のことや広告の続きが気になるようにする
「年収〇〇〇万円でも家を買えるまち」、「安全なまち首都圏ランキング2位！」	数字を活用して印象づける

- ・キャッチコピーの提案

◆「我孫子」の語呂が、「自分と子どもと孫」の3世代を連想させることから、3世代近居や同居をイメージしたキャッチコピー

- ・我・孫・子 3世代でくらせる湖畔のまち
- ・我^{わたし}も孫も子もみんなが幸せなまち 我孫子
- ・我・孫・子 三世代でトカイナカ生活
- ・我と孫と子と安心のまちで暮らそう
- ・3世代近くに住もう 我孫子（あびこ）
- ・我・孫・子 三世代で暮らせるまち

◆子育て環境の充実をPRするキャッチコピー

- ・自然と子育てホットシティ 我孫子
- ・子育てしやすい我孫子
- ・子育て・子育ちしやすい街 我孫子
- ・育ての街、子育ての街

◆都心に近くて利便性が高く、かつ自然が豊かな「トカイナカ」なまちとしてPRするキャッチコピー

- ・トカイナカシティ 我孫子
- ・水と暮らせるトカイナカ 我孫子
- ・都会なのに、自然とふれあえる街 我孫子
- ・長く住みたい街

◆手賀沼をはじめとした豊かな自然があることをPRするキャッチコピー

- ・花の水辺 我孫子
- ・水と緑のふるさと
- ・鳥と蛍と成田線
- ・我孫子といえば手賀沼
- ・子どもがのんびりできる街

- ・ゆったり・ほっとできる街 我孫子
- ・水の都 我孫子（あびこ）
- ・水の杜 我孫子（あびこ）
- ・手賀沼ウォーターフロント 我孫子（あびこ）
- ・湖畔で暮らせるまち あびこ
- ・手賀沼湖畔で暮らす
- ・湖のほとり あびこ
- ・3世代自然都市 我孫子（あびこ）

◆我孫子で育ち、現在は市外に居住する方に対して、Uターンを促すキャッチコピー

- ・そろそろ、親孝行しませんか。
- ・「おかえり。」ふるさとにくらす幸せ
- ・慣れ親しんだまちにくらす幸せ
- ・我孫子に住んでみませんか？

◆千代田線始発駅で、通勤・通学に便利なまちであることをPRするキャッチコピー

- ・（ゆっくり）座って通勤しませんか？
- ・座って通勤できる街
- ・始発のまち 我孫子（あびこ）
- ・始発の駅 我孫子（あびこ）
- ・始発に乗れるまち あびこ

◆都心から40km圏内という地理的な利点をPRするキャッチコピー

- ・遠いけど近い街
- ・都心まで1時間のいなかまち 我孫子（あびこ）

◆都心と成田空港との中間地点に位置する地理的な利点をPRするキャッチコピー

- ・世界と都心の中継点 我孫子

◆「都心に近い」、「自然が豊富」、「子育て環境が良い」など、長所はたくさんあるが、なぜか人口増加に結びつかない状況を逆手にとってPRするキャッチコピー

- ・もっと！！我孫子！！
- ・住めば都 意外といいまち 我孫子（あびこ）
- ・住んでみよう 我孫子（あびこ）

◆読みにくいことを逆手にとって、答えが知りたくなるようにして、市のHPに誘導する

- ・我孫子って読めますか？
- ・読める？我孫子（あびこ）
- ・どこ？我孫子（あびこ） ※地図で示す

◆治安の良さ（住環境を）PRしたキャッチコピー

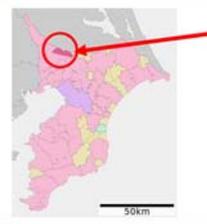
- ・寝心地がいいまち あびこ
- ・静かに眠れるまち あびこ

- ◆我孫子の東と西のイメージを表したもの
 - ・田舎の心地よさと都会の便利さのあるまち
- ◆我孫子おいしい飲食店が意外とたくさんあるので、それをアピールしたもの
 - ・隠れたグルメのまち 我孫子（あびこ）
 - ・隠れた名店の多いまち 我孫子（あびこ）
- ◆比較的地価が安いことにより、所得が高くないマイホームが持てることをPRするキャッチコピー
 - ・私は年収〇〇〇万円で家を建てました！ 我孫子（あびこ）
 - ・年収〇〇〇万円でも一戸建てで暮らせるまち 我孫子（あびこ）
- ◆施策と関連付けたキャッチコピー
 - ・いじめゼロのまち 我孫子（あびこ）
 - ・企業を育てるまち 我孫子（あびこ）
- ◆全国に誇れるものを探してPRするキャッチコピー
 - ・〇〇全国第1位 我孫子（あびこ）

②不動産業者・住宅展示場・住宅メーカーなどの活用

- ・我孫子市の魅力や住宅支援策、子育て支援策、市内各地区の魅力などをPRするチラシを配置し、不動産物件や住宅などの売り込みに活用してもらう。市内、東葛エリア、茨城方面、成田方面を対象に実施する。

PRチラシのイメージ



**あびこ
我孫子市**

千葉県北西部に位置し、都心から電車で35分。利根川と手賀沼に囲まれた自然豊かな水辺のまち。

**あびこ
我孫子で暮らそう！
我孫子ってこんなまち！**

**うなぎちさんが教える
知って得する 我孫子の魅力！！**





千代田線始発、快速停車で、都心へも成田へも美々アクセス！！
2014年度には東京駅にも直通予定です。



**我・孫・子
3世代で暮らせる湖畔のまち**

我孫子市は3世代の同居・近居による子育てや介護の共助を支援します！

我孫子市の魅力をたっぷりご紹介します。

我孫子市役所
千葉県我孫子市我孫子1858番地 ☎04-7185-1111(代表)
<http://www.city.abiko.chiba.jp>

1 杉村楚人冠記念館、白樺文学館、志賀直哉邸跡、旧村川別荘

大正時代、手賀沼のほとりにはその景観に魅せられて文化人が集いました。往時の我孫子を感じられる施設がいくつもあります。家族で訪れてみてはいかがでしょうか。



★我孫子市の子育て支援★

★保育園待機児童ゼロ 保育課 保育担当 ☎7185-1490
昭和61年から保育園待機児童ゼロを堅持しています。必ず保育園に入れるから安心です。市内には、市立保育園7園、私立保育園13園の合わせて20の保育園があります。

★子どもの医療費助成 子ども支援課 手当担当 ☎7185-1492
0歳から中学校卒業まで、県内の医療機関で受診する場合、保険証と受給券を提示すると、通院1回、入院1日につき200円または無料で受診できます。

★あびっ子クラブ 子ども支援課 放課後対策担当 ☎7185-1492
あびっ子クラブは、小学生を対象に、小学校を活用して放課後や土曜日など、子どもたちが安心して遊ぶことのできる子どもの居場所です。

2 手賀沼

手賀沼沿いには遊歩道が整備されています。四季折々の風景を楽しみながらジョギングをしたり、歩いたり、健康的な生活を送ってみませんか。



8月には手賀沼で花火大会が開催されます。水中花火は幻想的で、とてもきれいです。

4 鳥の博物館

「人と鳥の共存をめざして」をテーマに、わが国初めての鳥だけを扱った博物館です。

3 手賀沼公園

市民の憩いの場であり、市を代表する公園です。手賀沼の水に触れられるふれあい岸辺や周囲を一望できる公園岬のほか、子どもたちが緑の中で自由に遊べる広場には遊具や砂場もあります。



★我孫子市の住宅支援・交通支援★

★住宅取得補助金 建築住宅課 ☎7185-1541
若い夫婦世帯(夫婦ともに49歳以下)が我孫子市内に住宅を取得する場合の補助金です。子ども(中学生以下)がいて、親世帯も同居・近居する場合には最大25万円補助されます。

★大住リフォーム補助金 建築住宅課 ☎7185-1541
我孫子市民または我孫子市への転入者が市内の登録施工業者等にお願したリフォーム工事の費用に対する補助金です。子育て世帯の場合は最大50万円補助されます。

★駅前駐車場利用料金への補助 交通課 ☎7185-1369
成田線沿線(湖北・新木・布佐)居住者が我孫子駅・天王台駅を利用して通勤・通学する場合に、月極駐車料金の一部を補助します。

③ウェブ・SNSの活用

- ・定住化促進専用HPを作成し、市内にお住まいのモデル世帯のくらしぶりを3世代に分けて紹介する。
- ・専用ページは、多くの人の目に触れるよう、検索の上位にくるようにする。さらに、リスティング広告を活用して宣伝効果を高める。



定住化促進専用HPのイメージ

- ・市内の魅力的なポイントやイベントなどの写真を自由に投稿できるサイトをつくってPRにいかす。
- ・我孫子にゆかりのある有名人や「うなきちさん」が、市内を巡って案内するようなプロモーションビデオをつくり、専用ページやインストリーム広告として流す。
- ・若い世代や子育て世代で利用者の多いフェイスブックを活用し、我孫子市についての情報をリアルタイムで発信する。

④マスコミや有名人の活用

- ・テレビ局に企画書を送るなどして番組を誘致する。
「出没！アド街ック天国」、「ぶらり途中下車の旅」など
- ・新聞、雑誌、地域情報誌、住宅情報誌などに、我孫子市に関する情報を掲載してPRする。
- ・我孫子にゆかりのある有名人に我孫子市の宣伝マン（宣伝大使・PR大使・広告大使）になってもらい、宣伝マンとしての名刺と我孫子市のPR用チラシを作成し、機会あるごとに市外の方に配ってもらう。



⑤我孫子市の話題づくりに取り組む

- ・あびバスと停留所のデザインを一新する。
- ・我孫子市のB級グルメをつくる。
- ・手賀沼にまつわる伝説をつくる。
- ・漫画やアニメの聖地化に取り組む。
- ・英才教育を行う学校をつくる。
- ・アナログの市民掲示板を立ち上げる。
- ・手賀沼周辺や地域でのイベント、スポーツ関連のイベントを強化する。



野田市 まめバス



守谷市 モコバス

2. 子育て環境の更なる充実

我孫子市では、これまで子育て支援に力を入れて取り組み、保育園では昭和61年から待機児童ゼロを堅持してきました。さらに、学童保育室でも待機児童ゼロを維持するとともに、放課後や土曜日に小学生が安心して過ごせるあびっこクラブの運営や、中学3年生までの子ども医療費の助成など、手厚い支援を行っています。

しかし、首都圏住民へのアンケートで、子育て世代にとって住宅購入のきっかけとなる行政サービスとして、子育て支援策が最も多かったことから、子育て環境の更なる充実を図って、市内外の子育て世代にアピールしていく必要があります。

また、子育て世代の市外からの転入や定住化を促進するだけではなく、少子化や晩婚化、晩産化が進む中、出生率のアップに向けて、婚活や結婚、妊娠、出産といった場面でのサポートを充実させていくことも重要と考えます。

住宅購入のきっかけとなりそうな行政サービス・事業【世帯別】《MA》

(%)

	助成			情報発信			住宅関連				
	や転 補入 助金 対す る 税 制 優 遇	遇子 や育 補て 助世 金代 への 税 制 優 遇	居二 な世 帯住 への 宅 助、 成三 世 代 同	ト移 の住 者 成 成 迎 パ ン フ レ ッ	れ転 入の 窓の 相談 の設 置 乗 つ て く	ベー ジの 促進 専用 のホ ーム	空 き家 バン ク 制 度	大 規 模 な 住 宅 開 発	住 駅 に 近 く 利 便 性 の 高 い	大 規 模 商 業 施 設 の 誘 致	
全体(n=1000)	43.0	28.1	9.3	5.4	7.6	3.4	10.7	7.9	33.8	15.6	
世帯別	一人暮らし(n=186)	48.4	11.3	4.3	5.9	12.9	4.8	10.8	6.5	38.7	16.7
	夫婦のみ(n=233)	42.1	20.6	9.4	7.3	7.7	4.3	11.2	7.7	39.1	14.6
	夫婦(自分)と子ども(未婚・既婚含む)(n=375)	41.3	46.1	8.8	3.5	4.5	2.9	7.2	7.7	28.0	13.9
	自分と親(n=138)	40.6	10.9	9.4	4.3	10.1	2.9	18.8	10.9	37.0	20.3
	三世代(n=44)	40.9	27.3	22.7	9.1	2.3	0.0	11.4	9.1	31.8	20.5

強み

①保育サービスの充実

- ・昭和61年から保育園の「待機児童ゼロ」を28年堅持してきた。26年4月には、新たに定員80人の私立保育園が開園する。
- ・市内すべての小学校に学童保育室が開設されている。保育料は月8千円で、平日は放課後から午後7時まで、土曜日や学校休業日は午前8時から午後7時まで運営されている。
- ・保護者の仕事や病気、出産などで一時的に家庭での保育が困難になった子どもの一時預かりを、市内7か所の保育園で実施している。対象は6か月以上の未就学児で、保育時間は午前8時半から午後4時半まで。1日預かりは3歳未満児で2,700円、3歳以上児で1,200円。半日預かりはその半額。
- ・集団保育や家庭保育が困難で、病気回復期には至らないが当面症状の急変は認められない病児や、病気回復期にある病後児の保育を病児・病後児保育施設で行っている。市内の認可保育園などに入園している生後57日目から小学3年生までの児童が対象で、保育時間は日曜・祝日以外の午前7時から午後7時まで。
- ・幼稚園の預かり保育を利用する保護者に対し、利用料（園により異なる）の半額を助成している。

②小学生の居場所づくり

- ・小学生が放課後や土曜日などに安心して過ごせる「あびっ子クラブ」を、小学校5校で運営している。26年度にはさらに2校を開設する。利用料は年間500円と割安で、平日は午後5時まで、土曜日や学校休業日は午前10時から午後5時まで、地域の方々のサポートにより運営されている。

③幼児教育への支援

- ・幼稚園に通園している3歳から5歳児の保護者に対し、園児1人あたり年1万9千円を助成している。

④子どもの健康支援

- ・0歳から中学3年生までの子どもの医療が、通院1回・入院1日につき200円で受けられる。県内の医療機関で受診する場合は、保険証と受給券を提示するだけで、面倒な申請手続きは不要。
- ・市内6つの市立保育園で幼児が歯の質を強くするフッ化物でうがいをする事業や、5歳児健康診査に同伴する保護者にも歯科健診を行う事業を実施している。
- ・26年度から、県内初となる小児のインフルエンザワクチン接種費用の助成を開始する。生後6か月から小学6年生までの子どもを対象に、助成額は1回につき千円とし、1人あたり2千円まで助成する。

⑤親子間や子育て世代間の交流支援

- ・地域の親子が自由に集まり、遊び、交流できる場として、市内4か所に子育て支援施設（にこにこ広場、すくすく広場、わくわく広場、すこやか広場）を開設し、ふ

れあい遊びや育児講座、季節の行事などを開催している。毎月施設だよりを発行し、子育てに役立つ情報や講座・イベントの情報を発信している。利用時間は、にこにこ広場が午前10時から午後5時まで、他の3施設は午前9時から午後4時まで。

- ・市立保育園の保育士がアビスタと4か所の子育て支援施設に出向き、毎月1回ふれあい遊びや歌遊び・絵本の読み聞かせなどを行い、親子の交流の場を作っている。
- ・子育て支援センターの保育士が、地域の公共施設に出向き、毎月1回ホールでのびのびと体を動かす遊びや、絵本の読み聞かせなど、さまざまな親子遊びを行っている。
- ・地域の公園では、子育て支援施設4か所のスタッフが、毎月地域の公園に出向き、体操や親子遊びなどを行っている。
- ・父親が育児に関わり、子育ての楽しさと喜びを再認識してもらうため、「enjoy パパ応援プロジェクト」を実施している。年4・5回、公共施設でスポーツ教室や料理講座を行ったり、子育て支援施設4か所で父子ふれあい遊びなどのさまざまな楽しいイベントを開催している。
- ・市で認定した子育てサポーターが、地域の「子育て応援隊」として、在宅で育児をしている家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や相談対応を行っている。

⑥学校教育の充実

- ・いじめや不登校に結び付きやすい中1ギャップの解消や学力の向上を図るため、27年度から布佐地区で小中一貫校のモデル事業を実施する。
- ・小学校に入学したばかりの1年生が不適応を起こす小1プロブレムの解消に向けて、幼保小の連携を推進し、幼稚園・保育園における幼児教育から小学校教育へ円滑な移行を図る取り組みを行っている。
- ・理数教育の充実を図るため、小中学校に理数教育サポーターを配置し、理科の実験・観察や算数・数学の少人数指導などの支援を行っている。
- ・市内の小学校3校（我孫子第二小学校、高野山小学校、湖北台西小学校）で、水田を活用した農業体験授業を行っている。

⑦いじめ・不登校対策

- ・小中学生やその親が抱えているいじめ問題をはじめとした悩みの相談に対応するため、専門の相談員を配置したホットラインを開設している。相談時間は、祝祭日を除く月曜日から金曜日の午後2時から7時まで。
- ・いじめや非行防止などの対策として、小中学校でベテラン教師や元教員などにより、週に1時間道徳教育を行っている。
- ・学校に行けなくて欠席が続いたり、家に引きこもりがちになっている子どもたちが、さまざまな活動を通して自立の力を身につけ、学校生活への復帰ができるよう、適応指導教室を設置している。開室時間は、平日の午前9時から午後3時半まで。

⑧課外授業の実施

- ・小学4年生から6年生を対象に、年3回、県立手賀の丘少年自然の家で、1班11人の男子2班と女子2班で、2泊3日の野外炊飯やナイトウォークなどの体験授業を行っている。日中は学校で授業を受け、学校と宿泊先へはバスで送迎している。

- ・青少年ナイトウォークと称して、手賀沼1周（18km）を夜通し歩く。対象は小学4年生から中学3年生で、他校・異学年・男女混合で1班10人と青少年相談員で班を結成し、班ごとに手賀沼親水広場から手賀沼を1周する。

⑨妊娠・出産への支援

- ・不妊に悩む夫婦に対し、不妊治療1回につき、5万円を上限に助成している。これにより、国・県の助成金を合わせると、1回の治療で27万5千円の助成となる。
- ・家事や育児などの手助けを必要とする産後4週間以内の母親のいる家庭に対し、ママヘルパーを派遣し、1時間500円で産後の生活を支援する。

⑩結婚支援

- ・市内で結婚して市内に住んでもらうため、我孫子市市社会福祉協議会の主催により、お見合いパーティーやお見合いバスツアーなどを、それぞれ年に3回から4回開催している。

弱み

- ・我孫子市の子育て支援策は非常に充実しているが、それが市外の方々にうまく伝わっておらず、認知度が低い状況にある。
- ・市内の公園には、子ども用の遊具がある程度整備されているが、子どもたちや保護者の間で話題となるような魅力ある遊具が備わっていない。
- ・少子化を背景に子どもの教育に熱心な保護者が増えつつある中、そうした保護者のニーズを満たし評判となるような小中学校教育が不足している。
- ・我孫子市の人口減少対策としては、市内への転入や定住化を促進して社会減を改善するだけではなく、出生数を増やし、すでに始まっている自然減を改善していくことが不可欠であるが、婚活や結婚、妊娠、出産への支援も含めた総合的な少子化対策が十分とは言えない。

取り組み方針

特色ある小中学校教育の推進

少子化を背景に、子どもの教育に関心のある親が多い。また、小学校入学前までに、子どもの教育環境を重視して定住先を決め、マイホームを購入するケースも多い。そのため、こうした親のニーズを満たす特色ある小中学校教育に取り組み、成功事例をつくってアピールしていく。

出産や子育てに対する不安や孤立感の解消

核家族化が進む中、出産や子育てに対する不安や孤立感を感じている人たちが増えている。若い世代に多くの子どもの産み育ててもらうため、こうした不安や孤立感の解消に向けた取り組みを進めていく。

子育て世代にアピールできる施設の充実

市内には、幼児や児童が楽しめる遊具が整っている公園が少なく、遊具がないことを転出理由に挙げている方もいる。また、赤ちゃん連れの家族が気軽に外出できるよう、おむつ交換や授乳できるスペースもまち中に必要である。そのため、子育て世代にアピールできる公園や、赤ちゃんステーションなどの施設の充実に努めていく。

婚活や結婚への支援

人口減少や少子化が進む中、若い世代に結婚してもらい、子どもを産み育ててもらうことも若い世代の定住化には欠かせない。一方、結婚して子どものいる家庭を築きたいと思っても、結婚相手が見つからず結婚できない人たちもいる。そのため、婚活や結婚への支援も検討していく。

既存の子育て支援策のPR

我孫子市は、周辺市と比較しても子育て支援策が充実しているにもかかわらず、その認知度が低いので、効率的で効果的な手法によりPRしていく。

◆近隣市との比較◆		我孫子市	柏市	流山市	松戸市	印西市
医療費助成	通院	中学3年生	小学3年生	小学6年生	中学3年生	中学3年生
	入院	中学3年生	中学3年生	中学3年生	中学3年生	中学3年生
待機児童数	保育所	0	117	57	91	48

医療費助成は26年1月現在、待機児童数は25年4月1日現在



流山市PRサイト、子育て支援もPR

具体的な取り組み

①英検や漢検などの資格取得を目指す

- ・例えば、小学校ではALTと毎日10分間トークの時間を作るなどして、児童全員が英検5級の取得をめざす。
- ・英検だけに限定せず、漢字検定や我孫子市独自の検定試験「あびこ検定」を設けて子どもの得意な科目を伸ばす。受験料の免除・助成も併せて検討する。

②中学校における赤ちゃんに触れ合うなどの育児体験授業

- ・現在、我孫子東高校では、高校生に家族を持つ喜びや、子育てのすばらしさを学んでもらうため、3歳未満の乳幼児とその親を招いて、交流会を実施している。
- ・このように、赤ちゃんに触れ合う、未就学児と遊ぶなど、市内の子どもと触れ合う体験ができる授業を市内の全中学校で行う。

③水田を活用した学習の充実

- ・水田を活用した農業体験授業は、市内の小中学校3校で実施しているが、この3校をモデルとして、市内の全小学校で実施する。また、こうした授業の中で、水田と手賀沼との関わりなどを学んでもらう。

④子育て交流マーケット(子ども用品のフリーマーケット)の実施

- ・不要となった子育て用品のリサイクル(不用品の譲渡・交換)を行い、子育て世代の経済的負担の軽減を図るとともに、子育て世代間の交流を育むため、フリーマーケットを定期的を開催する。



⑤子育て世代にアピールできる公園遊具などの設置

- ・市内の主要な公園に、親子連れで楽しめる魅力ある公園遊具を設置して、子育て世代にアピールするとともに、高齢者の健康づくりにつながる健康器具を設置して、三代で交流できる環境づくりを進める。

手賀沼公園



湖北台中央公園



气象台記念公園



南新木沖田公園



今後の検討課題

◆総合的な少子化対策の検討

取り組み方針で掲げた婚活や結婚への支援について、プロジェクトチームで検討を進めてきたが、具体的な取り組み内容を提案するまでには至らなかった。

現在、市の社会福祉協議会では、我孫子市で結婚し、我孫子市に定住してもらうため、婚活支援として、お見合いパーティーやお見合いバスツアーなど、様々なイベントを実施している。しかし、あまり知られていないこともあり、参加者も定員に満たないことから、企画を中止することも何度かあった。

そのため、今後は、こうしたイベントのPRを十分に行っていくのはもちろんのこと、少子化や晩婚化、晩産化が進む中、出生率のアップに向けて、婚活や結婚、妊娠、出産への支援も含めた総合的な少子化対策について、庁内でプロジェクトチームを立ち上げるなどして、検討していくことが必要と考える。

3. 手賀沼の魅力向上

手賀沼とその周辺の農地や斜面林がつくり出す美しい景観は、我孫子市の最大の魅力です。

手賀沼周辺では、日本最大の鳥のイベント「ジャパンバードフェスティバル」をはじめ、多くのイベントが開催されています。また、手賀沼ふれあいライン沿いには、飲食店などの商業施設が立地するとともに、手賀沼公園、生涯学習センターアビスタ、親水広場・水の館、鳥の博物館などの公共施設も充実しています。

しかし、現在の手賀沼周辺には、沼を一周する遊歩道がない、スポーツやウォーキングなどを楽しむ方々の休憩施設がない、若い世代にとって魅力的な商業施設が少ないなどの課題があります。

また、手賀沼公園周辺には駐車場が不足しているなどの課題もあります。

そのため、多くの若い世代や子育て世代にアピールできる環境整備やイベントの充実に努め、手賀沼の魅力を高めていく必要があります。

手賀沼の強み・弱み

強み

- ・首都圏30km圏内で唯一の天然湖沼である手賀沼と、その周辺の農地や斜面林が織りなす豊かな自然に触れながら生活できる
- ・市の中心部に位置する手賀沼公園は、気軽に手賀沼の水辺に親しめることから、市民の憩いの場になっている
- ・手賀沼公園と隣接し、図書館と公民館の機能が複合化した生涯学習センターアビスタは、生涯学習の拠点として、多くの市民に活用されている
- ・手賀沼親水広場には、水の館のプラネタリウム、じゃぶじゃぶ池などがあり、家族で楽しむことができる
- ・また、近くには手賀沼を一望できる手賀大橋がある
- ・手賀沼周辺では、ジャパンバードフェスティバルや手賀沼エコマラソン、エンジョイ手賀沼、手賀沼花火大会など多くのイベントが開催されている
- ・手賀沼の景観を楽しみながらヨットやカヌー、サイクリング、ジョギングなどのスポーツを楽しむ



弱み

①手賀沼公園周辺

- ・公園周辺には、駐車場や若い世代向けの飲食店が少ない
- ・公園内に子ども向けの遊具や照明が少ない
- ・若い人のデートスポットとなるような工夫がない
- ・公園内の湖岸は、水面と高低差があり、柵が設置されているため、気軽に水に触れることができない
- ・公園から沼を臨む景観が雑然としている
- ・公園の岬の脇には、アシなどの水生植物が茂っていて、手賀沼の東側方向を見渡すことができない
- ・一年を通じて継続的に開催されているイベントがない
- ・手賀沼の水面を楽しむ手段が少ない

②手賀沼沿い遊歩道

- ・手賀沼公園と手賀沼親水広場をつなぐ遊歩道の湖岸にアシなどの水生植物が群生していて、水辺の景観を楽しむことができない
- ・遊歩道が断続的な整備にとどまっておらず、手賀沼を一周することができない

③手賀沼親水広場周辺

- ・手賀沼でスポーツを楽しむ人向けの休憩施設がない
- ・手賀沼親水広場には、直接水に触れることができる場所が少ない
- ・手賀沼親水広場の駐車場は、出入口前面の道路が一方通行になっていて利用しづらい

取り組み方針

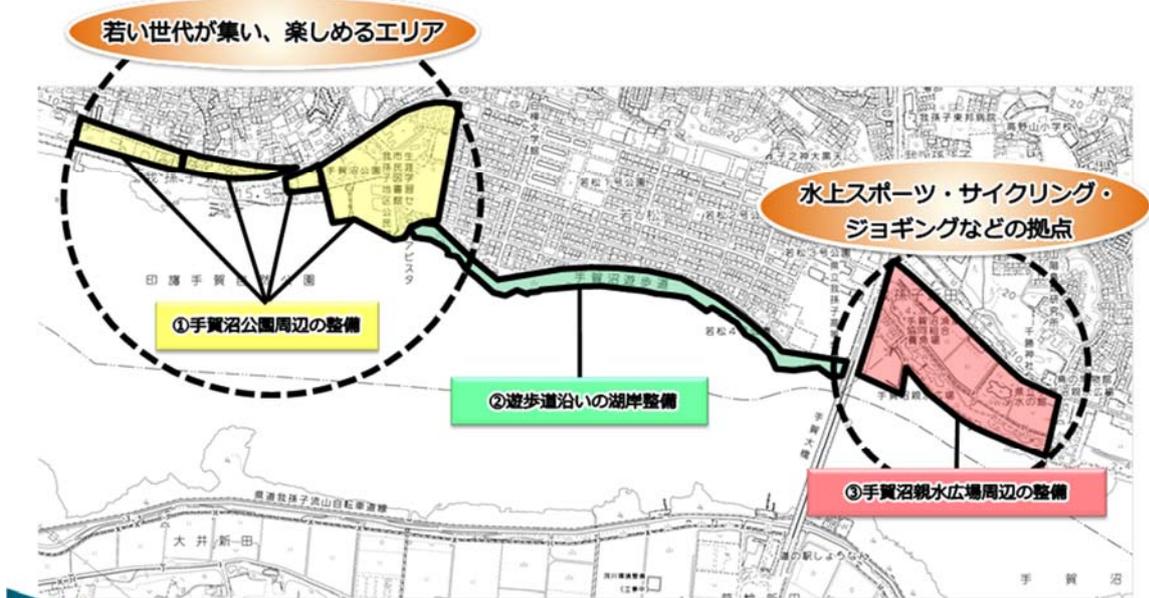
若い世代や子育て世代にアピールできる手賀沼周辺の整備

首都圏にあって、豊かな自然に触れながら生活できる環境は、定住先を検討中の若い世代に対する大きなアピールポイントである。

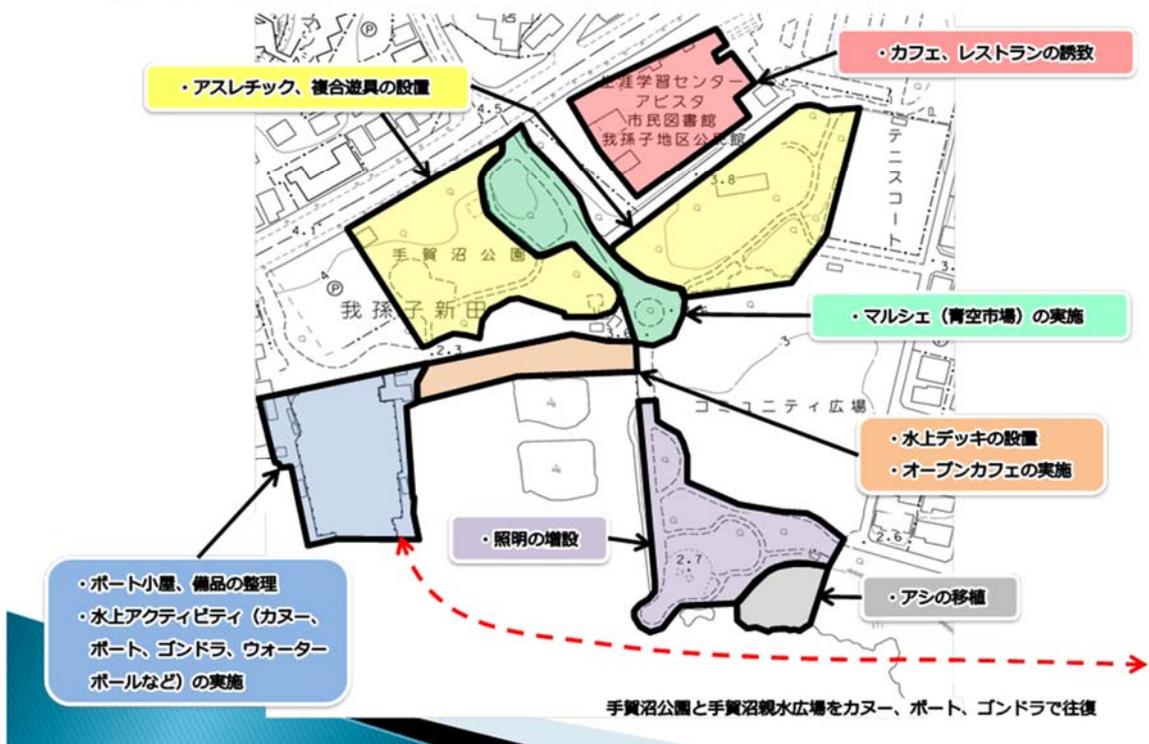
そのため、まずは若い世代に手賀沼を訪れてもらえるよう、若い世代にアピールできる施設の整備や景観の改善などのハード事業とあわせて、水上アクティビティの実施やイベントの開催などのソフト事業を展開する。

こうして手賀沼を訪れた若い世代の方々に、自然豊かな我孫子市の魅力を感じてもらい、定住促進につなげていく。

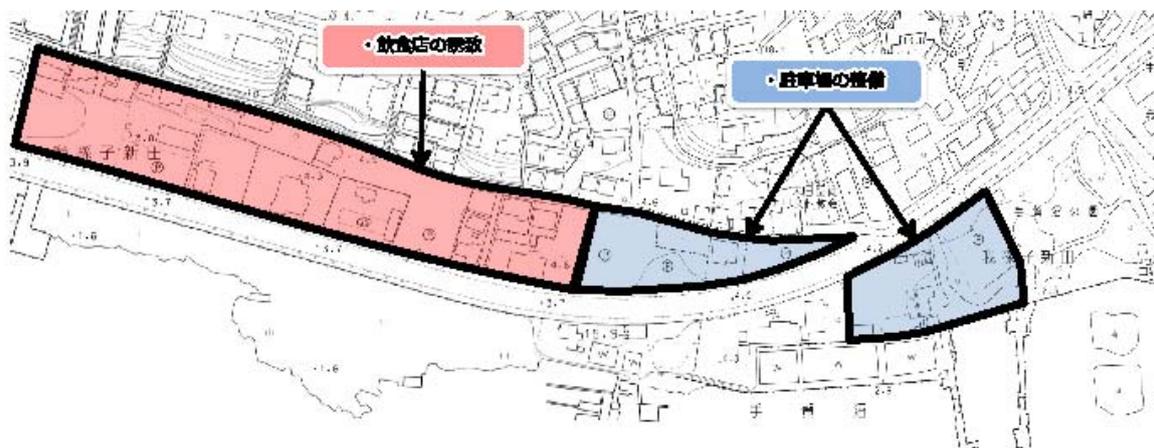
整備概要



①手賀沼公園周辺の整備



飲食店の誘致、駐車場の整備



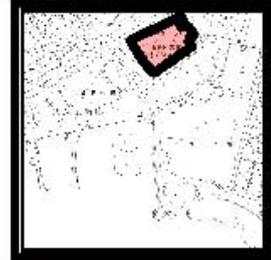
アスレチック・複合遊具の設置

- ▶ 子どもが来たくなる遊び場を提供。



カフェ・レストランの誘致

- ▶ 若者に人気のあるカフェ等を誘致。
- ▶ 図書館内の閲覧スペースにも飲み物を持ち込める様にする(図書館カフェ)。



おしゃれ・高級感で
人気のある
「スターバックスコーヒー」



2013年4月にリニューアルオープンした
佐賀県武雄市の市民図書館
(スターバックスコーヒーを併設して話題に)

入しやすい・庶民的で
人気のある
「ドトールコーヒー」



マルシェ（青空市場）の実施

- ▶ 週末にマルシェやフリーマーケット等を実施し、手賀沼公園に行けば何かあると思わせる。



流山市の「森のマルシェ」
(毎月1回開催)



松戸市の酔いどれ祭り

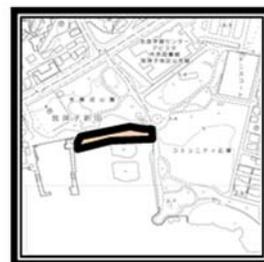


柏市の「柏の葉公園フリーマーケット」
(ほぼ毎週開催)

通り沿いの飲食店の料理を、路上の
宴会場で楽しもう、というイベント

水上デッキの設置

- ▶ 水辺をより近く感じられる空間として、水上デッキを設置する。



before



after



オープンカフェの実施

- ▶ 若者や女性が楽しめるよう、水辺でオープンカフェを実施する。



「河川利用の特例措置を適用する区域」として
国から指定を受けた広島市の京橋川



夜はイルミネーション

ボート小屋の刷新

- ▶ ボートや乗り場を刷新し、ファミリーやカップルが乗りたくなるような環境に。

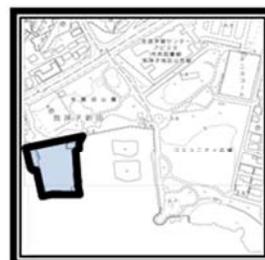


after



水上アクティビティの実施

- ▶ ボートだけでなく、カヌー、小型ヨット、ウォーターボールなど、水上ならではの遊びの場を提供する。



カヌー

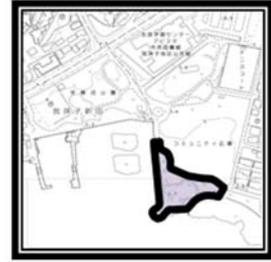
小型ヨット
(アクセスディンギー)



ウォーターボール

照明の増設

- ▶ 暗くなっても安全・安心に歩けるよう、照明を増設する。



オレンジの照明は
温か味があり、
雰囲気も良い



冬にはイルミネーション

アシの移植

- ▶ 岬脇に茂るアシを別の場所に移植し、水辺が見渡せる景観を確保する。



before



after



往復カヌー・ボート・ゴンドラの実施

- ▶ 手賀沼公園と手賀沼親水広場をつなぐ移動手段として、カヌー、ボート、ゴンドラで往復できるようにする。



駐車場の整備

- ▶ 現在の手賀沼公園とアビスタの駐車場は、休日には入車待ちの列ができていて、人も珍しくない。人を呼び込むのなら、駐車場を増やす事が必須である。
- ▶ ふれあいライン沿いの土地所有者の協力を得て、駐車場を整備する。



before



飲食店の誘致

- ▶ ふれあいラインの沿道に飲食店を誘致し、公園周辺の活性化を図る。

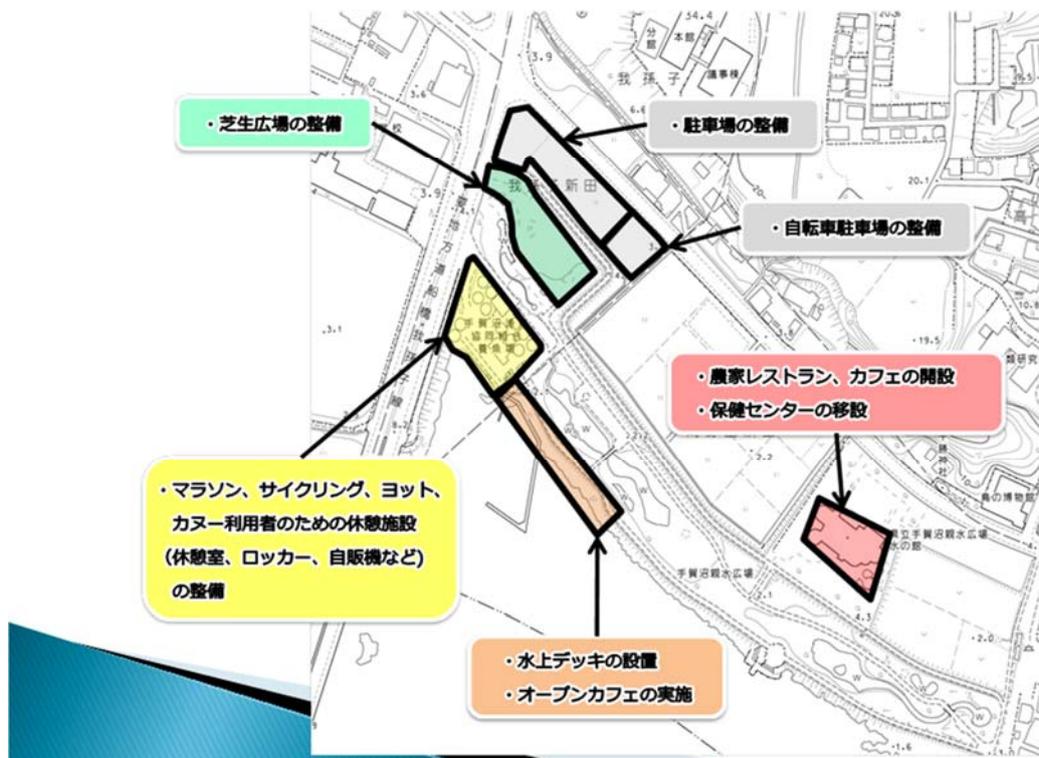


② 遊歩道沿いの湖岸整備



- ▶ 県の堤防盛土工事により水辺が見えるようになるようなので、経過を見守っていく。
- ▶ 遊歩道からの景観を良くするため、アシを別の場所へ移植する。

③手賀沼親水広場周辺の整備



農家レストラン・カフェの開設

- ▶ 水の館の1階を農産物直売所にして、農家レストランまたはカフェを併設。



保健センターの移設

- ▶ 保健センターを移設することにより、水の館は親子連れが多く訪れる場所に。



【1階】農家カフェ&直売所



【2階】健(検)診場所(保健センター)



【3階】プラネタリウム



【3階】保健センター事務室

【最上階】展望室



【外】水遊び場



【外】じゃぶじゃぶ池



休憩施設の整備

- ▶ マラソン、サイクリング、ヨット、カヌー利用者のための休憩施設(シャワー、ロッカー、自販機など)を整備する。



before



手賀沼漁業協同組合の土地



after



駐車場・芝生広場の整備



- ▶ 現在の親水広場第二駐車場の出口は、柏側にしか行けない造りになっている。それを解消するため、ふれあいライン沿いにあるゲート広場と農地を駐車場と自転車駐車場にし、我孫子側への出口も造る。
- ▶ 親水広場第二駐車場の跡地は芝生広場にして、休憩施設と連動した憩いの場とする。

before



水上デッキの設置



- ▶ 水辺をより近く感じられる空間として、水上デッキを設置する。
- ▶ デッキの先には、水上レジャー用の棧橋を設置する。

before



after



《参考》 河川空間のオープン化

これまで、河川敷地の利用は、公的主体による公共性、公益性のある施設（公園・橋など）に限られていたが、23年度から、全国で民間事業者による河川敷地の利用が可能になった。

例) 船着場、イベント施設、遊歩道、飲食店、オープンカフェ、キャンプ場、バーベキュー場など

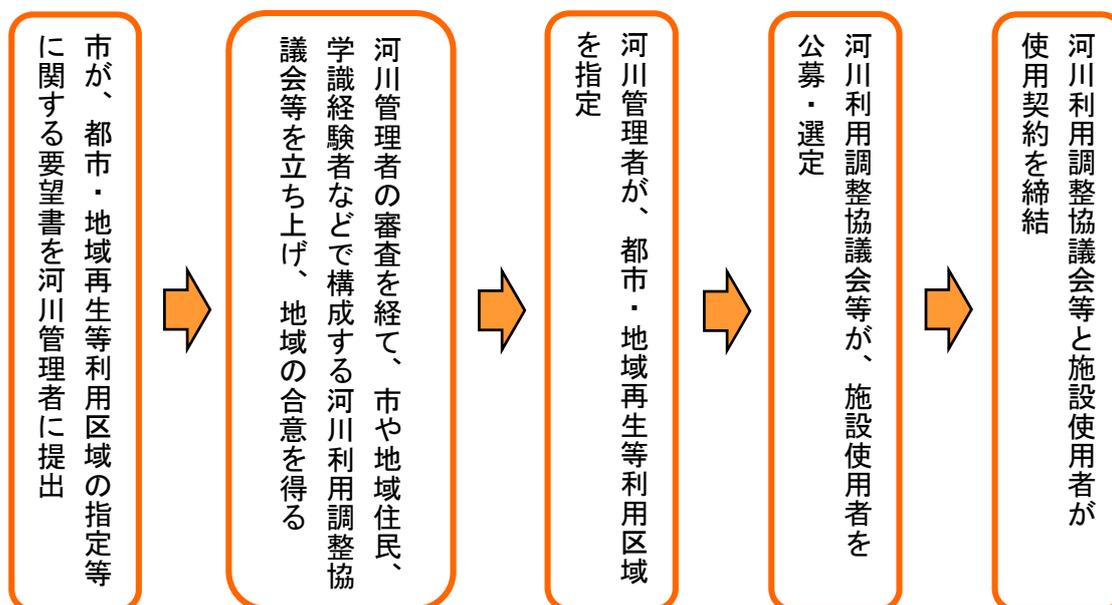


キャンプ場、バーベキュー場
(都幾川/埼玉県ときがわ町)



オープンカフェ
(京橋川/広島県)

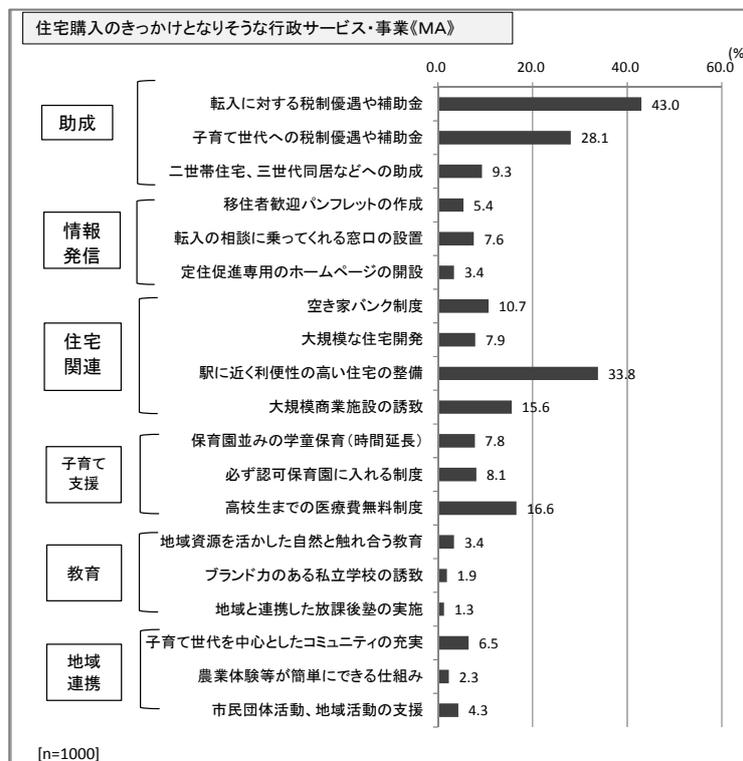
利用開始までの流れ（例）



4. 住宅支援・住宅供給

我孫子市は、東京のベッドタウンとして、昭和40年代から大規模な住宅開発を中心に順調に人口を伸ばしてきましたが、近年は開発余地が減少し、住宅供給が低迷している状況です。また、震災以降、市全体の人口は減少が続いていますが、成田線沿線である新木駅南側の新しい住宅地では、若い世代を中心に人口が増加傾向にあることから、良好な住宅や宅地の開発を誘導していけば、若い世代を呼び込むことが十分可能と考えます。

さらに、首都圏住民へのアンケートでは、住宅購入のきっかけとなる行政サービスとして「転入に対する税制優遇や補助金」が43%と最も高く、次いで「駅に近く利便性の高い住宅整備」が34%と2番目に高くなっていることから、若い世代の転入や住宅取得などに対する支援を行うことによって、さらに定住化につながるものと考えます。



住宅支援や住宅供給における課題

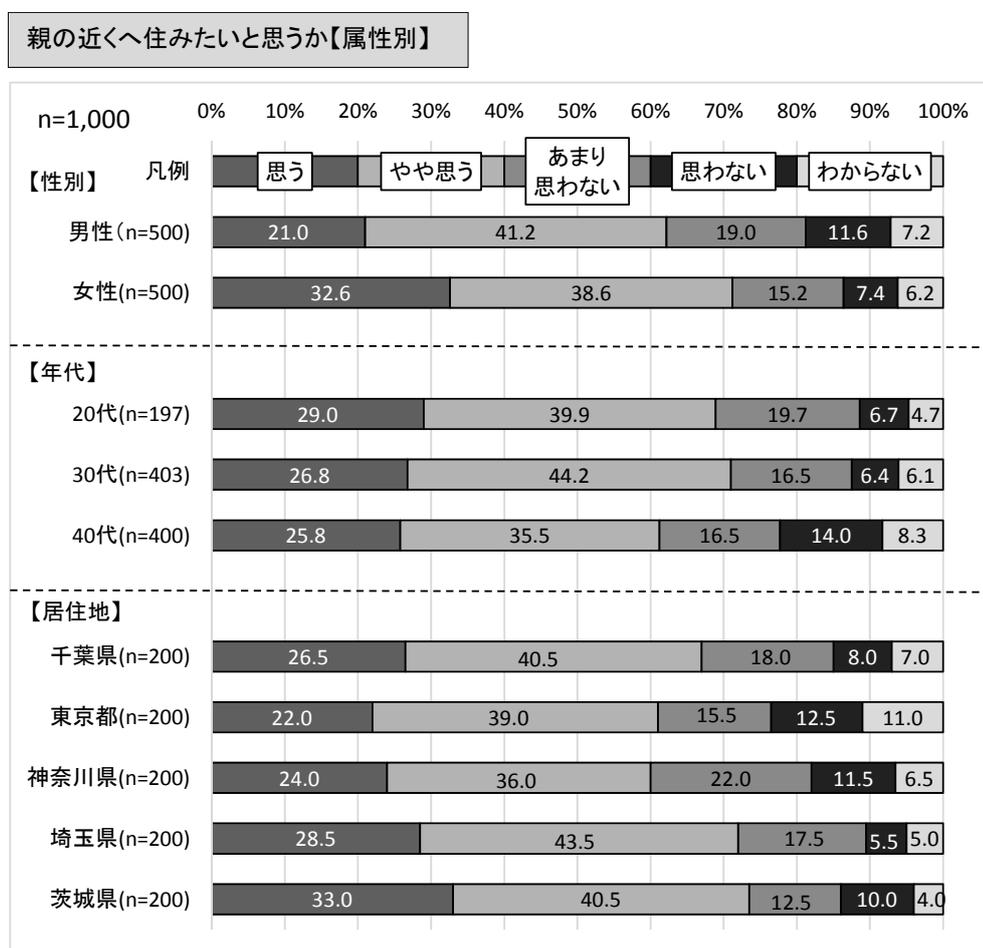
1. 住宅リフォーム補助が若い世代の転入促進につながっていない

住宅に対する支援策として、市では平成23年度から、市内の住宅関連産業の活性化と定住化の促進を兼ねて、住宅リフォームに対する補助を行っている。しかし、補助実績のほとんどが市内在住者が現在居住している住宅のリフォームとなっており、市外からの転入促進にはつながっていない。そのため、今後は、若い世代の転入促進につながるような住宅支援策を検討し、実施していくことが望まれる。

2. 親子の同居や近居に対する支援がない

首都圏住民へのアンケートでは、親の近くに住みたいと思う人とやや思う人の割合が20歳代と30歳代で約7割を占めている。また、転入者へのアンケートでは、我孫子市に転入を決めた理由（複数回答可）は、「親・子ども・知人が近くにいる」が最も高く、特に子育て世帯では5割を超えている。親世帯と子世帯が同じ市内に住めば、同居・別居にかかわらず、親子間での助け合いや見守りなどが容易になるというメリットがあるとともに、今後我孫子市が市名にあやかって「我・孫・子の3世代でくらせるまち」としてアピールしていくのであれば、親子の近居や同居に対する支援策を検討し、実施していくことが望まれる。

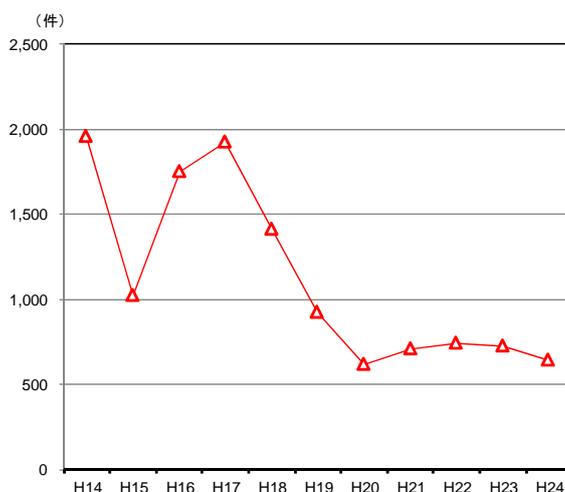
首都圏住民へのWEBアンケート調査結果



3. 開発余地が少なく、住宅供給が低迷している

我孫子市は、常磐線沿線では交通の利便性も高く、手賀沼をはじめとする自然環境に恵まれ、治安が良く犯罪が少ない、地価が比較的安いなど、住宅地としてのポテンシャルが高い。こうしたポテンシャルを背景に、これまで民間開発や土地区画整理事業によって住宅や宅地が供給されてきたが、近年は市街化区域内の開発余地が減少しつつあり、大規模な住宅開発もなく、住宅供給が低迷している。そのため、今後、青空駐車場などの都市的未利用地の有効活用を誘導するなどして、若い世代に魅力ある住宅を供給していくことが望まれる。

新規住宅着工件数の推移



(資料：千葉県建築着工統計)

平成25年地価公示 市別平均価格順位《住宅地》

県内順位	市町村名	単価
6位	松戸市	12万8,900円/m ²
9位	流山市	12万1,200円/m ²
11位	柏市	10万8,800円/m ²
千葉県平均		9万5,900円/m ²
13位	我孫子市	8万4,500円/m ²
14位	鎌ヶ谷市	8万4,300円/m ²

4. 空き家や空き地が有効活用されていない

平成25年2月現在、市内に約370件の空き家があるとともに、住宅地にあっても更地のままで活用されていない土地も見受けられる。高齢化の進展に伴い、今後さらに空き家や空き地の増加が予想され、防災や防犯、良好な生活環境保全の観点からも、これらを住宅地として有効活用していくことが望まれる。なお、自治体が主体となって空き家バンクを運営している事例はあるが、活発に活用されている事例はあまり聞かない。

取り組み方針

1. 住宅支援では、若い世代の住宅取得や親子近居・同居に対する支援を行う。
2. 住宅供給では、市街化区域内の都市的未利用地や低未利用地などの有効活用を誘導していくとともに、現在ある空き家や空き地を有効活用するためのしくみをつくり実施していく。

具体的な取り組み

1. 若い世代の住宅取得に対する補助金

若い夫婦や子育て世帯の住宅取得に対する補助を行って、若い世代や子育て世代の転入や市内での定着化を促進するとともに、親世帯が市内に住んでいる場合には補助額を加算して、親子の近居や同居を支援し、「我・孫・子の3世代でくらすまち」のイメージ定着に役立てる。

<補助プラン>

若い世代が市内に住宅を購入して転入してきた場合や、市内に住んでいる若い世代が市内で住宅を購入した場合に、次のとおり補助金を支給する。①を基本とし、②以降は加算要件とする。なお、単身世帯は③以降の加算要件から補助対象とする。

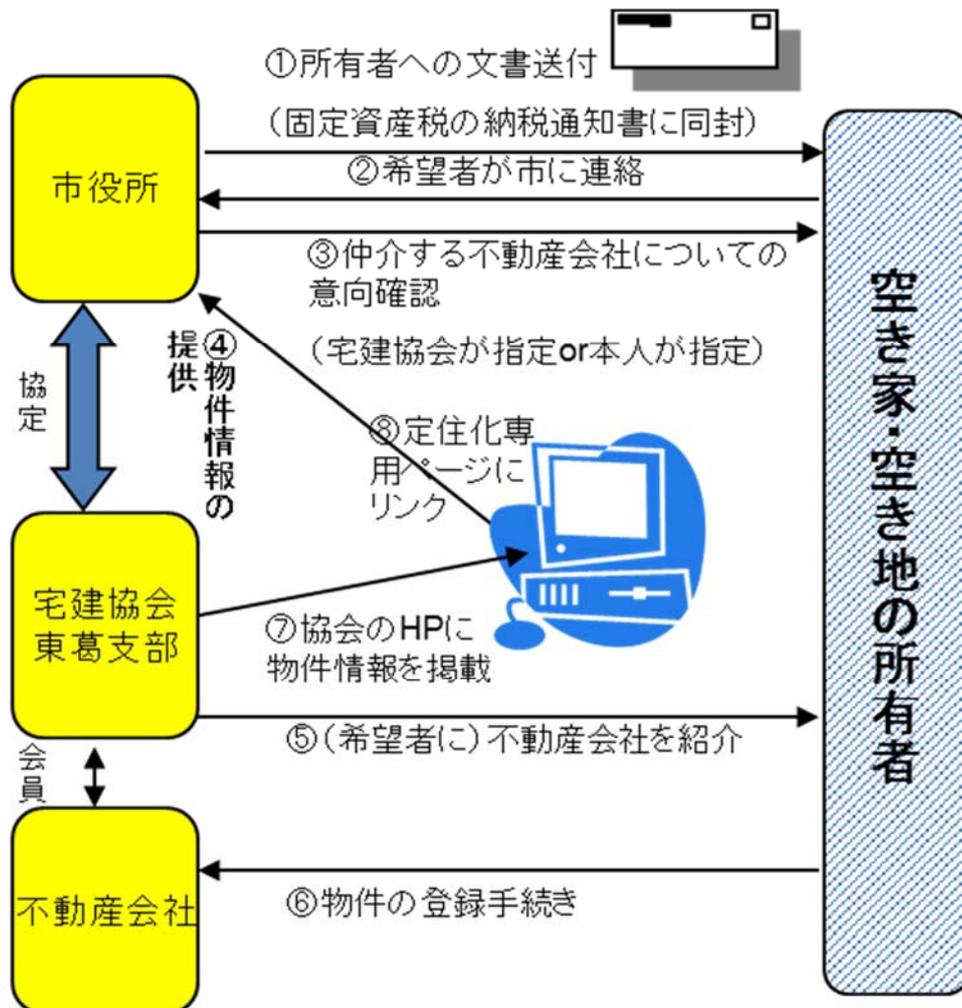
要件	分類	補助額	条件
基本	① 若い世代の住宅取得	10万円 (※単身世帯除く)	・ 49歳以下の世帯による住宅取得であること ・ 住民税等の滞納がないこと
加算	② 取得者に子どもがいる	+5万円	・ 子どもが中学生以下であること
	③ 取得者またはその配偶者の親が市内に居住	+5万円	・ 親が1年以上継続して市内に居住していること ・ 親世帯に住民税等の滞納がないこと
	④ 東側での住宅取得	+5万円	・ 「東側」の定義は、住宅リフォーム補助金に同じ
	⑤ 市外からの転入	+5万円	・ 取得者が1年以上継続して市外に居住していること
最大30万円の補助			

2. 空き家・空き地の物件情報の収集と提供

自治体が主体となって運営している空き家バンクで、活発に活用されている事例はあまり聞かないことから、不動産の販売や活用のプロである不動産事業者や社団法人千葉県宅地建物取引業協会東葛支部（以下「宅建協会」という）などが行っている物件情報の収集と提供をサポートし、空き家や空き地の有効活用につなげていく。

<しくみ>

- ①市のホームページや広報のほか、固定資産税の納税通知書郵送時に、「売りたい空き屋・空き地、貸したい空き家・空き地があったら市にご連絡ください。宅建協会の会員となっている不動産会社を紹介します。」のような文書を同封する。
- ②市から売却や賃貸を希望する方に連絡し、宅建協会が紹介する不動産会社での手続きを希望するか、本人が指定する不動産会社での手続きを希望するかの意向を確認し、物件登録の手続きを進めてもらう。
- ③登録した物件情報は、宅建協会のホームページなどに掲載してもらう。
- ④市では、市のホームページや定住化専用ページ（現在は未作成）に「住まいの情報」などの項目を設け、宅建協会のホームページのリンクをはって物件情報を提供する。



今後の検討課題

1. 住宅・宅地の供給誘導策の検討

- ・首都圏住民へのアンケートで、駅に近く利便性の高い住宅の整備を希望する回答が多かった。
- ・市内には市街化区域内の青空駐車場など、所有者の意向さえ合えば住宅や宅地分譲の可能性のある都市的未利用地が見受けられる。
- ・こうした都市的未利用地の所有者に対し、将来的にどのような土地利用を考えているのか、どうしたら住宅地として活用してもらえるのかなどの意向を確認しながら、利便性の高い駅周辺を中心に、若い世代や子育て世代にとって魅力的な住宅・宅地の供給を誘導する手法を検討していく必要があると考える。

今後参考となる手法

1. J T I 「マイホーム借り上げ制度」の活用

- ・シニア世代のマイホームを最長で終身にわたって借り上げて転貸する方法として、J T I（一般社団法人移住・住みかえ支援機構）の「マイホーム借り上げ制度」がある。
- ・安定した賃料収入を保証し、住み替えや老後の資金として活用することができる。

2. 民間デベロッパーへの支援

- ・若い世代や子育て世代が住みたくなるような住宅供給を進める事業者に対する支援を行う。
- ・具体的には、墨田区の「すみだ子育て支援マンション認定制度」のように、ベビーカー置場の確保や子育て相談の実施など、子育てに配慮した取り組みを行うマンションを認定し、施設整備に対する補助などの支援を行う。

3. 特定優良賃貸住宅

- ・質の高い中堅所得者向けの賃貸住宅で、家賃は国や自治体から補助がある。
- ・仲介手数料がないなどのメリットがあり、建築主が県に申請して行う。

5. 交通利便性の向上

我孫子市内には、我孫子駅・天王台駅・東我孫子駅・湖北駅・新木駅・布佐駅の6つの駅があり、常磐線の快速と各駅停車、成田線が通っています。

常磐線は、快速・各駅停車ともに運行本数が多く、各駅停車は我孫子駅が始発駅となって東京メトロ千代田線に接続していることから利便性が高く、多くの通勤・通学者に利用されています。

一方、成田線は、1時間に2本程度の運行本数であることから、不便と感じている市民が少なくありません。転出者へのアンケートでは、成田線沿線からの転出者は交通の不便さを最も不満に感じており、近年は、市内でも成田線沿線の人口減少が目立っています。

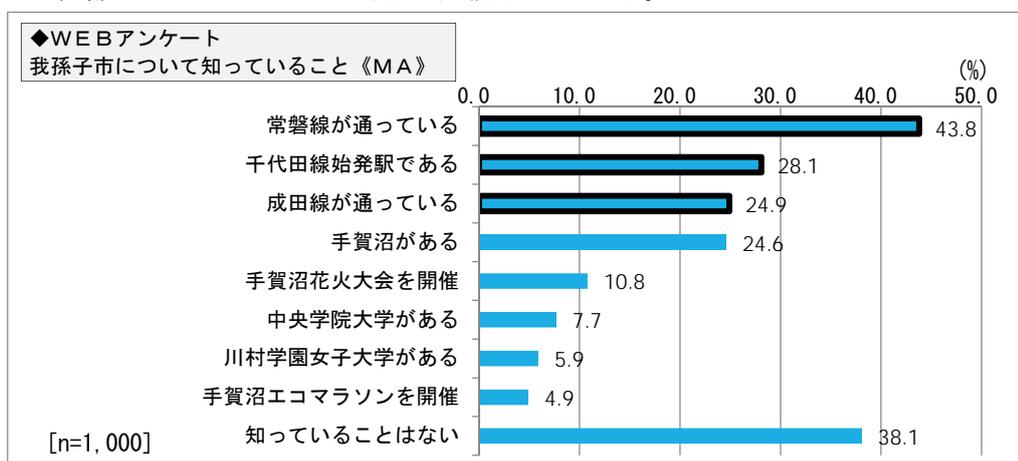
こうしたことから、特に成田線沿線の交通利便性の向上は、市域東側からの人口流出を食い止め、定住化を促進するうえで必要不可欠であると考えます。

我孫子市の公共交通の強み・弱み

強み

①我孫子駅と天王台駅からの都内へのアクセスが良い

- ・常磐線（快速・各駅停車）は運行本数が多いことから、我孫子駅や天王台駅からは、東京方面や茨城方面へ容易にアクセスでき、我孫子駅から上野駅までは、常磐線の快速で約35分でアクセスできる。
- ・常磐線の各駅停車は、東京メトロ千代田線に接続している。
- ・常磐線の各駅停車は我孫子駅が始発であり、都内への通勤・通学者は座って通えることから、メリットが大きい。
- ・常磐線は、平成27年春に東京駅までの延伸が予定されており、都心へのアクセスがさらに向上する。
- ・我孫子市の鉄道については、首都圏住民へのアンケートでも認知度が高く、我孫子市について知っていることの上位3位は全て鉄道が占めている。また、学生座談会でも、「千代田線の本数が多い」、「バスの本数が多い」、「都内に近い」などの意見があり、都内へのアクセスの良さが評価されている。



②東京と成田の中間地点

- ・我孫子市は、成田線が通過しており、成田国際空港へのアクセスに恵まれている。また、東京と成田の中間地点に位置することから、例えば、「都内に通勤する夫と成田に通勤する妻」というような夫婦にとっては、便利な立地といえる。

③交通不便地区の解消となる移動手段「あびバス」

- ・全てのルートで起点を駅に設定しているため、通勤や買い物などの利用目的を問わず、誰にとっても利用しやすいものとなっている。
- ・小型バスで運行しているため、狭い住宅地内を通行することが可能であり、駅や通常路線バスの停留場から離れた地区（交通不便地区）において、重要な交通手段となっている。

弱み

①成田線の運行本数が少なく、成田線沿線の住民が不便を感じている

- ・成田線は、1時間に2本～3本と運行本数が少ない。また、終電が早く始発が遅い。

【参考】
 ・我孫子駅発 下り最終・・・23:54
 常磐線下り最終・・・上野駅発0:34～我孫子駅着1:07
 ・布佐駅発 上り始発・・・5:11
 常磐線上り始発・・・我孫子駅発4:43

- ・転出者へのアンケートでは、湖北・新木・布佐地区からの転出者が感じた我孫子市の不満点として、交通の不便さが最も多くなっている。

我孫子市で不満を感じた点【属性別】												(%)
		交通の便が悪い	買い物不便	職場や学校が遠い	医療や福祉が充実していない	親・子ども・知人が近くにいない	住宅価格や家賃が高い	教育や文化的な環境が悪い	治安が悪い	自然環境や景色が悪い	子育て支援が充実していない	不満はなかった
全体(n=1330)		23.2	16.2	10.2	4.2	3.5	2.8	2.5	2.4	1.2	1.1	39.4
転出前の住所	我孫子地区(n=569)	12.0	12.0	11.1	4.4	2.5	4.2	2.1	1.2	1.1	1.2	47.5
	天王台地区(n=377)	13.5	16.7	10.3	4.2	5.0	2.7	2.9	4.2	2.4	0.5	44.3
	湖北地区(n=185)	43.2	15.1	5.4	4.3	3.2	1.1	2.7	1.1	0.5	2.2	28.1
	新木地区(n=71)	56.3	31.0	11.3	4.2	7.0	0.0	7.0	2.8	0.0	2.8	21.1
	布佐地区(n=105)	63.8	28.6	14.3	3.8	2.9	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	14.3

②新木・布佐地区は民間バスも不便

- ・我孫子駅や天王台駅から湖北駅に行くバスは、比較的運行本数が多いが、我孫子駅や天王台駅から布佐駅に行くバスの本数は、1時間に1本と極端に少ない。

③便数に課題のある「あびバス」

- ・ 1ルート1日1車両で運行しているため、相対的に便数が少ない。また、1日当たりの車両数を増やしたとしても、狭い道を通行していることから、1部区間では、バスのすれ違いが難しく、大幅な増便は難しい。

取り組み方針

交通利便性の向上では、成田線沿線の不便な公共交通への不満や不安を解消して定住促進につなげるという視点から、成田線沿線の住民が天王台駅や我孫子駅を利用して通勤・通学しやすい環境を整える。

具体的な取り組み

1. 成田線沿線住民が利用する駐車場料金への補助

市内東側地区の住民で、天王台駅か我孫子駅を利用して通勤・通学している方に対して、駐車場利用料を補助する。また、これにより駅周辺の空き駐車場の利用を促し、まちのにぎわいづくりにつなげる。



駐車場が目立つJR天王台駅周辺

<補助内容>

目的	<ul style="list-style-type: none">・ 成田線沿線の交通の不便を理由とした転出を抑制する・ 成田線沿線の交通の不便を理由に転入や転居をためらっている方の不安を解消する。
内容	①要件
	<ul style="list-style-type: none">・ 市内の東側地区の住民で、天王台駅か我孫子駅を利用して通勤、通学をしている方・ 継続して6か月以上、天王台駅か我孫子駅周辺の駐車場を月極で利用している方
	②補助金額
	月額2千円～3千円 ※月額2千円の補助とすると、年間100人の利用でも、予算は年240万円程度

<参考事例>

駐車場利用料金補助【兵庫県丹波市】	
目的・内容	市内各駅（JR）の利用者低迷を改善するため、駅周辺駐車場の利用料金を補助
条件	1. 丹波市内に住所がある方で、市内の駅からJRを利用して通勤通学されている方 2. 市内の駅で定期券を購入し、6ヶ月以上にわたり駅周辺駐車場を月極で利用される方
補助金額	1か月あたり1,500円を上限（駅周辺駐車料金は、月3～6千円）

2. 成田線の不便をカバーするバスの運行

成田線の運行本数が少ないという課題をカバーするためのアイデアは、プロジェクトチームでもなかなか妙案が浮かばなかった。その理由として、成田線の定期券を持っている通勤・通学者が、通勤・通学時間帯に運行するバスにあえて料金を払ってまで乗車するとは考えにくいことや、我孫子駅から布佐方面へのバスの所要時間が長いため、本数が少ない成田線を利用した場合と到着時間がほとんど変わらないことが考えられる。

一方、成田線の終電が早すぎるという課題に対しては、成田線の終電後に新木や布佐方面に帰る人は、終電後に我孫子駅から布佐方面に行くバスがあれば、料金がJR運賃より若干高くても利用すると考えられ、一定の効果があるものとする。

なお、成田線の運行本数が少ないという課題については、民間バス事業者を含め、住民参加型のワークショップを実施して、バスの運行時間帯や運行ルート、乗車可能人数、料金などを検討していくことが望ましいと考える。

今後参考となる事例

1. 全国のバス再生事例・導入効果が認められる事例（国土交通省）

国土交通省が平成14年に実施した全国各地のバス再生取り組みの事例調査で、「バス事業者の収支状況が改善されている」や「利用者の利便性向上に影響が大きかった」などの視点から評価されている事例は、次のとおりである。

<参考事例>

	武蔵野市「ムーバス」	西東京市「はなバス」	前橋市「はなバス」
導入の背景、目的	交通空白不便地域の解消を図る 徒歩や自転車での移動を強いられてきた地域における身近な移動手段を確保する	市内の公共交通空白地域の交通手段と市役所その他公共施設利用へのアクセスを確保するため 新市建設計画の重点4施策の一つに位置付け	中心市街地等の移動の利便性を高め、市街地の活性化を図ることを目的として運行 構想段階から住民参加型をとり、導入の要請から本運行における運行補助まで住民が積極的に参加
バス事業者のメリット	運行収支が赤字の場合は市から事業者へ不足分を補助、黒字の場合は事業者から市へ1/2を寄付する仕組みとなっており、経営上のリスクが少ない	運行補助金として、運行収入から事業費を引いた金額を公費負担しており、経営上のリスクが少ない	初期費用の助成や運行助成を行うことにより、バス事業者の負担は少ない
利用者のメリット	ワンコイン(100円)で乗れる手軽な運賃のため、交通弱者の利用頻度が高い 日常の身近な移動手段として親しまれ、地域住民にとってのバス交通環境の満足度は高い	通勤・通学に利用できるダイヤ	前橋は車社会であるため、車に乗れない高齢者は外出しにくい状況であったが、高齢者が外出する際の足となっている
具体的	人件費を抑えるため、55歳以上の運転手を採用	乗務員の嘱託員化や外国製車両から維持経費の安い国産車両への変更、一部ルート見直しによる経費削減	トランジットモールを途中に設置 前橋市と地元警察が協議し、トランジットモール内の車両運行スペースを色により区分けし、バスのヘッドライトを点灯して、BGMを流しながら時速10kmで走行するなど、歩行者と車両が一体となる運行に努めている
取り組み	運行当初から路線が増え、現在7路線・9ルートを運行中。交通ICカード「PASMO(パスモ)・Suica(スイカ)」も利用可能に	平成14年に4路線での運行開始。のちに第5ルートも開通し、現在は5路線。 平成25年には料金改定(100円→150円)	当初南北2路線だったが、現在は東西南北4路線で運行 料金は一律100円(子ども50円)
取り組み結果	バス路線のない交通不便地域が解消され、またムーバスが走る地域として地域イメージの向上に貢献 毎日7,000人以上が利用。平成24年に利用者数3,000万人を突破。 吉祥寺駅周辺の交通渋滞の解消、自転車からバス利用への転換による違法自転車駐輪の減少	高齢者の利用が25%と高い 利便性の向上によりマイカーからバスへの転換がみられるほか、特徴あるバス車両の導入とサービスによって地域イメージの向上につながっている 5ルートの運行で年間130万人以上が利用	特徴ある車両導入とトランジットモールの整備は地域のイメージ向上に貢献し、商店街等の賑わいを創出している 高齢者、女性を中心に買い物利用が多く、中心市街地における平均利用金額が上昇 過剰な車依存からの公共交通利用への転換

2. 民間バス事業者との連携事例

バスの運営で、民間事業者と自治体が連携して成功を収めている事例として、金沢市のバストリガー協定がある。

金沢バストリガー協定【石川県金沢市】	
内容	この協定では、バス事業者である北陸鉄道と利用者側は、バスの運賃や路線の新設・延長、運行本数の増加など、バスの利便性向上のための取り組みを決める。また、採算ラインについて合意し、それを下回った場合には、取り組みをやめることができる。
バス事業者のメリット	利用者増加を狙って行う運賃引き下げやバス路線新設等の事業展開の成功の可能性を高められる。
利用者のメリット	利用者は、積極的かつ継続的にバスを利用するという一定の責任を担う代わりに利便性が向上する。
具体的取り組み	バス事業者が一定の区間について料金を100円に値下げする代わりに、金沢市や金沢大学を中心とした地元地域はバスを積極的に利用し、目標利用客数に達した場合に限り、翌年度も料金の値下げを継続することとした。
取り組み結果	06年度からの5年間にわたり目標利用客数を達成。12年度からは、対象エリアを何度でも利用できる「トリガー実験定期券」(実験期間は3年間)に移行し、実験地域における回遊性向上も志向している。

6. 生活利便性の向上と働く場の確保

我孫子市では、日常生活に必要な食料や衣料、日用品については、おおむね市内で購入することができますが、地域によっては近くの商店が閉店するなどして日常の買い物が不便なところもあります。また、家具などの耐久消費財や、スポーツ用品・楽器などの趣味の品、高級ブランド品などの買回り品については、市内で購入したくても購入することが困難となっています。

そのため、休日には、こうした買回り品などの専門店が出店している近隣市の大型商業施設に買い物に出かける市民が多く、市内の経済にとってもマイナスとなっています。首都圏住民へのアンケートでは、住宅購入のきっかけとなる行政サービスとして、「大型商業施設の誘致」が19項目中5番目に高く、学生座談会でも、「若い人が集えるショッピングモールがない」という意見が多くありました。

一方、首都圏住民へのアンケートでは、住む場所を決めるにあたって、「通勤先・通学先との距離」を最も重視する結果となっていることから、市内で働く場所が増えれば、それに伴って市内への転入者も増加するものと考えられます。特に多忙な共働きの子育て世帯にとって、職住近接は大きな魅力です。また、生活利便性の向上に欠かせない商業施設の立地は、多くの雇用を必要とします。

こうしたことから、若い世代の定住化を進めるうえでは、若い世代や子育て世代にアピールできる商業施設を誘致して、買い物をはじめとした生活の利便性を高めるとともに、市民の働く場の確保につなげていくことが効果的と考えます。

取り組み方針

若い世代にアピールできる複合型商業施設の誘致

- ・若い世代の定住化促進という視点からみれば、特に女性を中心とした若い世代や子育て世代にアピールできる娯楽的要素も含んだ複合型の商業施設を市内の中心部に誘致すれば、市民の買い物をはじめとした生活の利便性を高めることができるとともに、働く場所の確保にもつながる。さらには、こうした施設の立地が、我孫子市の知名度やイメージアップを図るうえでも非常にインパクトのあるものになる。
- ・なお、誘致にあたっては、既存の市内商業者を圧迫せず、両者の共存共栄が図られるよう、また、市民が市外に買い物に行かなくても済むよう、これまで市内で購入できなかった商品やサービスを取り扱う業種を誘致すべきである。

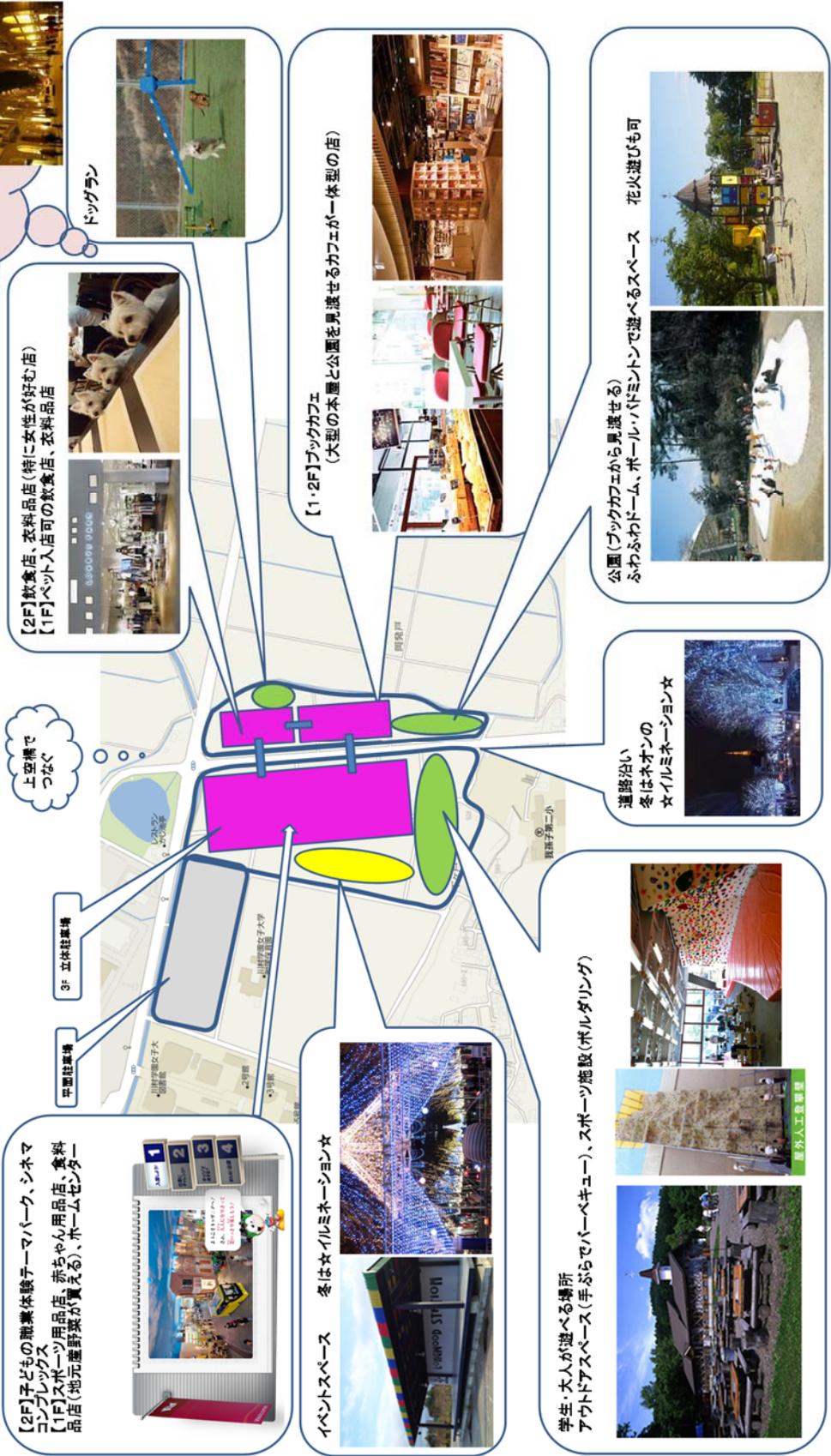
具体的な取り組み

①下ヶ戸地区への複合型商業施設の誘致

- ・市のほぼ中央に位置し、川村学園女子大学やNEC我孫子事業場に隣接する下ヶ戸地区の市街化調整区域に、特に女性を中心とした若い世代や子育て世代にアピールできる娯楽的要素も含んだ複合型商業施設を誘致する。
- ・国道6号や国道356号、県道我孫子利根線から直進で来られるアクセス良好な場所であり、市外からの買い物客も期待できる。
- ・館内には、既存の市内商業者を圧迫しないような、ホームセンターやシネマコンプレックス、スポーツ用品店、赤ちゃん用品店、地元野菜が購入できる食料品店、女性が好む衣料品店、ペット入店可能な飲食店、本を読みながら公園を見渡すことが可能なブックカフェ、子どもの職業体験テーマパークなどの配置が考えられる。
- ・屋外には、イベントスペースをはじめ、学生や大人が遊べる場所として、手ぶらでバーベキューができるアウトドアスペースや、ボルダリングなどが行えるスポーツ施設、親子で集える場所として、ボール遊び、バドミントン、遊具遊びなどができる公園やドッグランなどがあると良い。
- ・また、話題性や認知度をアップさせるため、全体的にドラマなどのロケ地としても活用してもらえるよう、表参道やヨーロッパをイメージしたおしゃれなデザインに統一する。

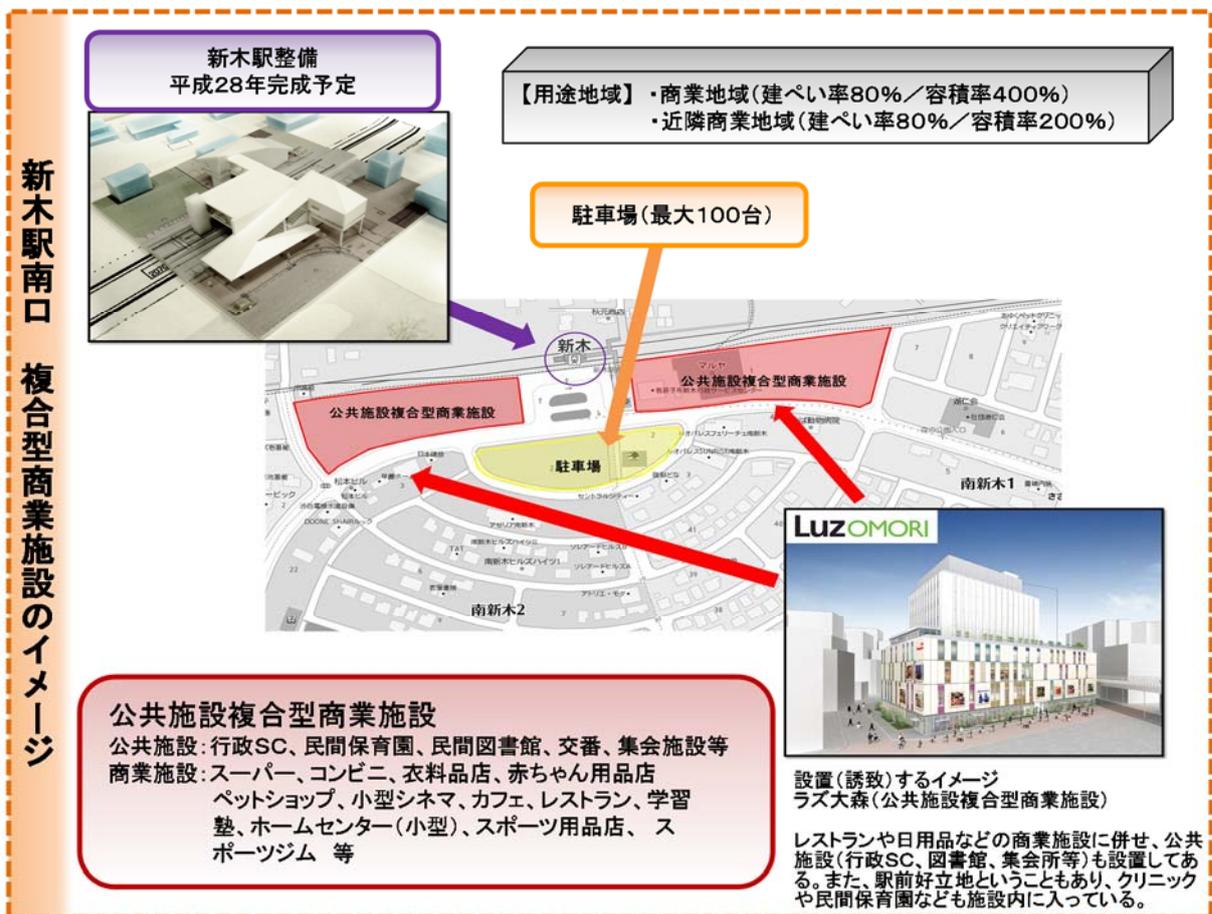
下ヶ戸地区 複合型商業施設のイメージ

下ヶ戸 複合型商業施設の誘致	
内容	複合型商業施設を市の中心部に誘致し、雇用を創出するとともに、若い世代に魅力あるまちづくりを進める。
区域区分	市街化調整区域内の甲種農地
効果	<p>雇用を創出する。 生活の利便性が向上する。 若い世代が集える場所が増え、まちが若返る。若い世代に我孫子市についてオシャレなイメージを持たせることができる。 魅力的な(大型で便利な)商業施設の近くに住みたいと考え、若い世代の定住につながる。 市の中心部に誘致することで、湖北、湖北台地区の活性化にもつながられる。 国道6号線・356号線から入り直道で来られる場所、かつ天王台駅から徒歩で行ける場所にあり、アクセス良好のため、市外からの買い物客も期待できる。</p>



②新木駅南口への公共施設複合型商業施設の誘致

- ・新木駅南口の商業地域と近隣商業地域に商業施設を誘致し、現在駅前に設置されている行政サービスセンターや交番、集会施設などの公共施設を併設する。
- ・新木地区や布佐地区では、印西ニュータウンに買い物に行っている住民が多く、買い物が不便ということで転出する人もいる。また、新木駅は平成28年度に新駅舎が完成する予定であり、近隣住民からも駅直結の商業施設が期待されていることから、駅近という立地を活かす。
- ・館内には、衣料品店や赤ちゃん用品店、ペットショップ、小型シネマ、カフェ、レストラン、小型ホームセンター、スポーツ用品店、スポーツジム、学習塾などの配置が考えられる。
- ・また、公共施設のほかに、公共性の高い施設として、民間保育園やクリニック、民間による図書施設などがあると良い。



IV. 事業化に向けて

提案させていただいた具体的な定住化策のうち、「シティセールスの専門部署の設置」、「若い世代の住宅取得に対する補助」、「子育て世代にアピールできる公園遊具の整備」の3つの提案については、平成25年12月に行った中間報告に基づき、早速平成26年度から実施できるよう、庁内関係部課のご理解とご協力のもと、予算措置などの準備が進められています。

今後も我孫子市が持続可能なまちとして発展を続けていくためには、市の職員一人ひとりが若い世代の定住化の重要性を認識し、取り組んでいくことが大切です。さらに引き続き、定住化策のアイデアを恒常的に募集するとともに、企画課による進行管理のもと、庁内関係部課が連携しながら、提案内容の事業化に向けた取り組みを継続していただきたいと考えます。

テ ー マ	具 体 策	事業化に向けて
シティセールスの充実	シティセールス・定住促進の専門部署の設置	26年4月から（仮称）「あびこの魅力発信室」を設置 26年10月から公募による民間経験者を採用
	我孫子市のイメージや知名度のアップに向けた広報戦略の実施	（仮称）「あびこの魅力発信室」を中心に実施
子育て環境の更なる充実	英検や漢検などの資格取得	27年度からの実施に向け、26年度は関係課で検討する
	中学校における赤ちゃんと触れ合うなどの育児体験授業	27年度からの実施に向け、26年度は関係課で検討する
	水田を活用した学習の充実	27年度からの実施に向け、26年度は関係課で検討する
	子育て交流マーケット（子ども用品のフリーマーケット）の実施	27年度からの実施に向け、26年度は関係課で検討する
	子育て世代にアピールできる公園遊具などの設置	26年度から実施 26年度は南新木沖田公園に子育て世代にアピールできるコンビネーション遊具を設置
手賀沼の魅力向上	若い世代や子育て世代にアピールできる手賀沼周辺の整備	関係課で協議し、実施に向け検討していく
住宅支援・住宅供給	若い世代の住宅取得に対する補助金	26年度から実施 最大で30万円の補助
	空き家・空き地の物件情報の収集と提供	27年度からの実施に向け、26年度は関係課で検討する
交通利便性の向上	成田線沿線住民が利用する駐車場料金への補助	27年度からの実施に向け、26年度は関係課で検討する
	成田線の不便をカバーするバスの運行	関係課で協議し、実施に向け検討する
生活利便性の向上と働く場の確保	下ヶ戸地区への複合型商業施設の誘致	関係課で協議し、誘致に向け検討を進める
	新木駅南口への公共施設複合型商業施設の誘致	関係課で協議し、誘致に向け検討を進める

VI. 資料

1. 会議開催経過

【全体会議】

	開催日	議 題
第1回会議	平成25年5月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検討委員会について 2. 現状の報告（配布資料の説明） 3. 今後のスケジュールについて
第2回会議	平成25年7月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定住化策の検討について <ul style="list-style-type: none"> ・各委員から出た意見について ・定住化策のターゲットについて ・今後我孫子市が取り組むべき定住化策の方向性について 2. 今後の進め方について
第3回会議	平成25年8月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定住化策の検討について <ul style="list-style-type: none"> ・今後我孫子市が取り組むべき定住化策の方向性について 2. 今後の進め方について
第4回会議	平成25年11月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ別検討結果の発表 2. 我孫子市のPR・シティセールスの総括 3. 中間報告について 4. 今後のスケジュール
第5回会議 (中間報告)	平成25年12月3日	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ別検討結果の発表 2. 今後のスケジュールについて
第6回会議	平成26年2月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最終報告までの流れについて 2. 最終報告書（案）の校正・まとめ方 3. 中間報告からの変更点について 4. 最終報告書（案）の「IV. 事業化に向けて」について 5. 最終報告の進め方について 6. 定住化策を見込んだ将来人口のシミュレーションについて
第7回会議 (最終報告)	平成26年2月25日	最終報告

【グループ別会議】

Aグループ

	開催日	議 題
第1回会議	10月7日	・我孫子市のPR・シティセールスの充実について
第2回会議	10月18日	・住宅供給・住宅支援について ・利便性の向上について
第3回会議	11月5日	・住宅供給・住宅支援について ・利便性の向上について
第4回会議	11月13日	・中間報告について

Bグループ

	開催日	議 題
第1回会議	9月24日	・我孫子市のPR・シティセールスの充実について ・手賀沼の魅力向上について
第2回会議	10月11日	・手賀沼の魅力向上について
第3回会議	10月31日	・手賀沼の魅力向上について（現地視察）
第4回会議	11月6日	・我孫子市のPR・シティセールスの充実について ・手賀沼の魅力向上について ・中間報告について
第5回会議	11月19日	・我孫子市のPR・シティセールスの充実について ・手賀沼の魅力向上について ・中間報告について

Cグループ

	開催日	議 題
第1回会議	9月30日	・我孫子市のPR・シティセールスの充実について
第2回会議	10月15日	・子育て環境の更なる充実について ・働く場所の確保について
第3回会議	10月30日	・我孫子市のPR・シティセールスの充実について
第4回会議	11月19日	・働く場所の確保について ・中間報告について
第5回会議	11月22日	・中間報告について

2. 設置要綱

我孫子市定住化促進庁内検討委員会設置要綱

平成25年2月5日訓令第2号

(設置)

第1条 若い世代の定住化等を促進する施策について検討するため、我孫子市定住化促進庁内検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員15人以内で組織し、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

(1) 次の表に掲げる課に属する職員

秘書広報課	企画課	市民活動支援課	健康づくり支援課	子ども支援課
商業観光課	企業立地推進課	交通課	都市計画課	建築住宅課
生涯学習課				

(2) 委員の募集に応じた職員

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、企画課長をもって充てる。

2 委員長は、会務を取りまとめ、委員会を代表する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する者がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、企画財政部企画課において処理する。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この訓令は、公示の日から施行する。

附 則 (平成25年5月7日訓令第15号)

この訓令は、公示の日から施行し、(中略)第24条の規定による改正後の我孫子市定住化促進庁内検討委員会設置要綱の規定は、平成25年4月1日から適用する。

3. 委員名簿

氏名	所属	役職	備考
大畑 照幸	企画課	課長	委員長
山梨 智和	秘書広報課	主任	
渡邊 さやか	市民活動支援課	主事	
滝川 太一	商業観光課	主任	
菊池 弘美	企業立地推進課	嘱託職員	
志村 直美	健康づくり支援課	主任保健師	
加崎 麻美	子ども支援課	主査長	
吉岡 泰生	交通課	主任	
津川 雄飛	都市計画課	主査長	
高橋 晃	建築住宅課	主任	
坂田 真樹	生涯学習課	主任	
小嶋 敬一	財政課	主任	応募による
矢野 布美子	保育課	主事	応募による
黒岩 佑太	子ども支援課	主事	応募による

Aグループ

渡邊 さやか、高橋 晃、坂田 真樹、黒岩 佑太

Bグループ

滝川 太一、志村 直美、加崎 麻美、小嶋 敬一

Cグループ

山梨 智和、菊池 弘美、吉岡 泰生、津川 雄飛、矢野 布美子